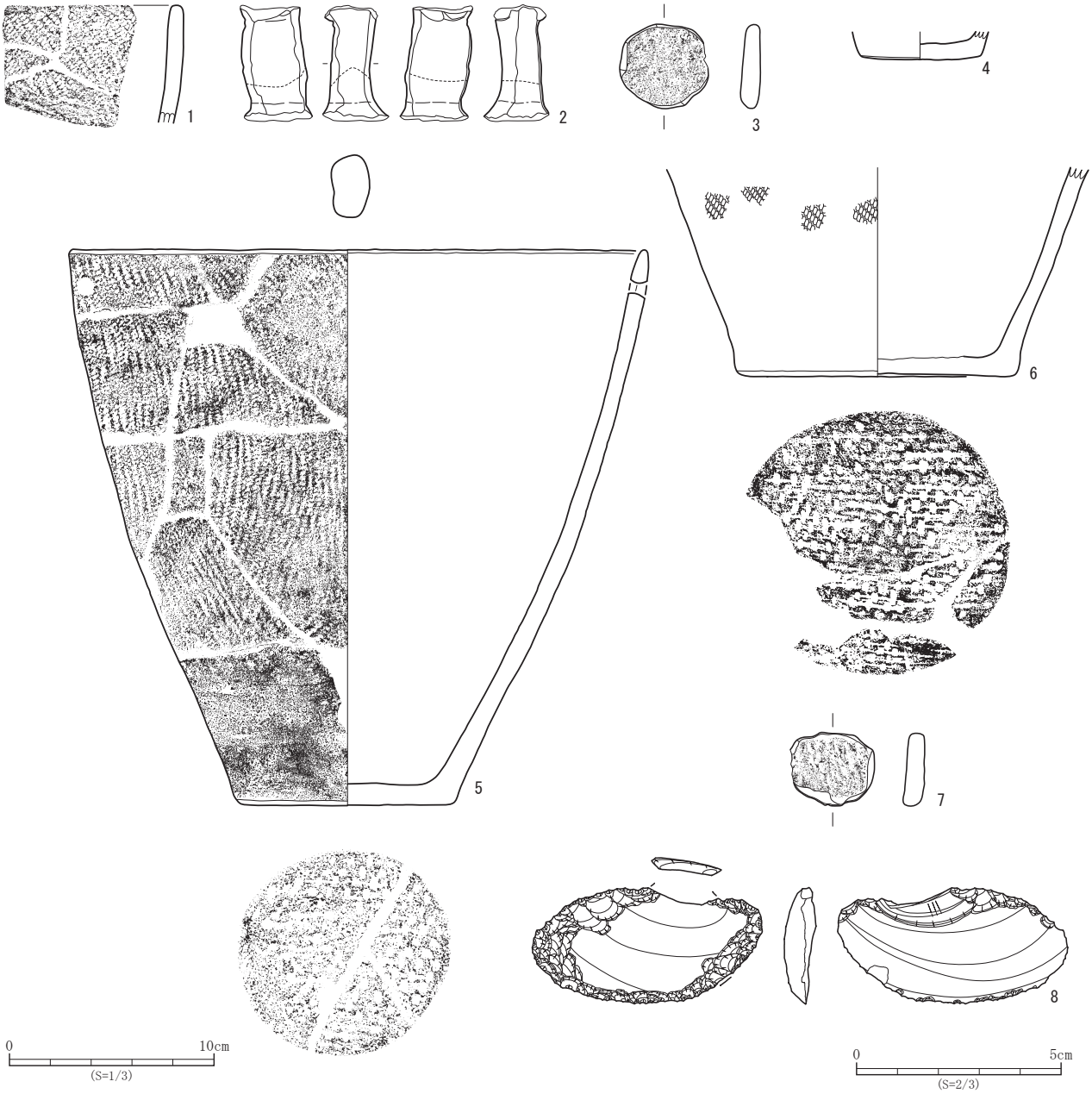
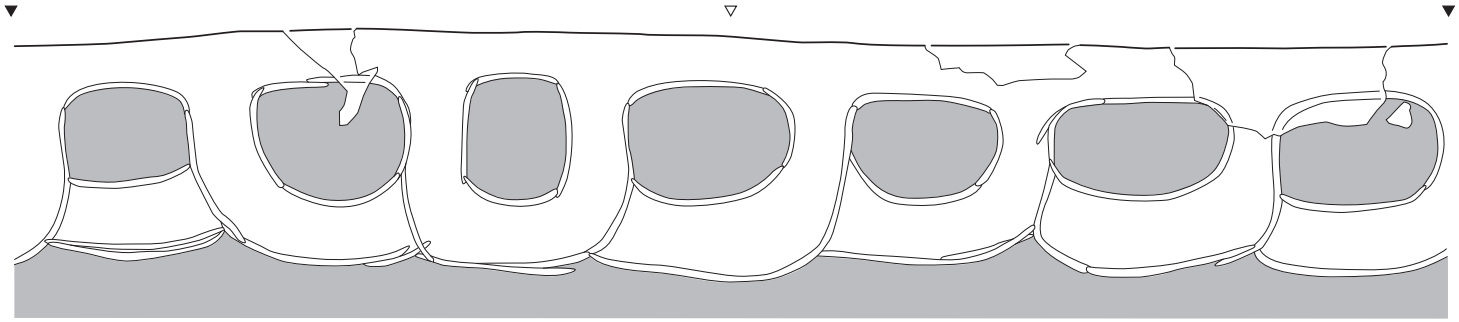
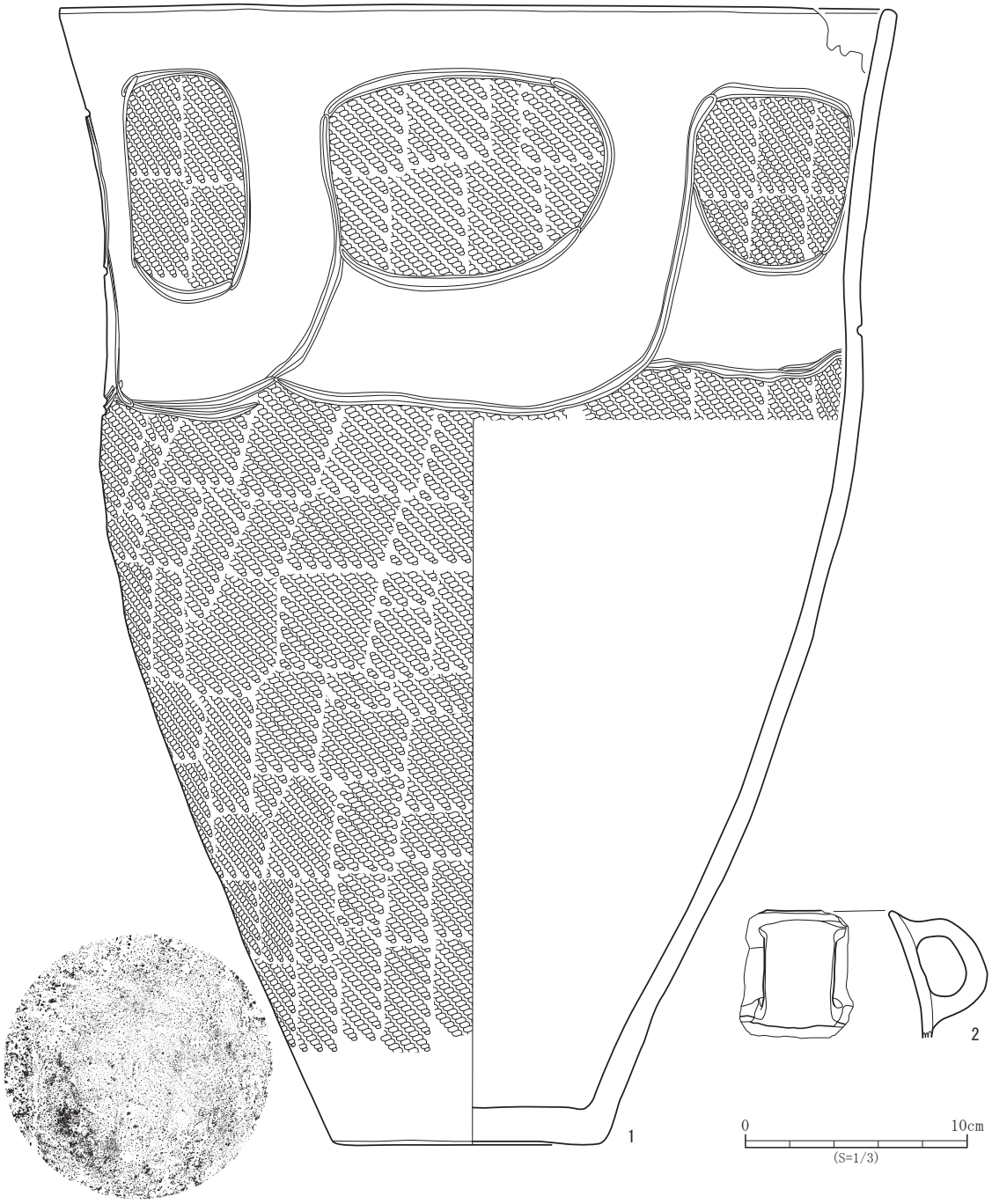


№	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-1073	SX394	1	縄文土器	深鉢	口縁部-RL縄文		63-３
2	P-95	SX394	－	土製品	不明	ナデ	下半部分変色。	63-４
3	P-81	SX394	－	土製品	土製円盤	ナデ	40×37×8㎜　14g	63-５
4	A-1074	SX395	－	縄文土器	小型土器	ナデ		63-７
5	A-1039	SX396	1	縄文土器	深鉢	口縁～胴部-RL縄文　底部-網代痕	補修孔あり。	63-８
6	A-1087	SX396	1	縄文土器	深鉢	胴部-RL縄文　底部-網代痕		63-９
7	P-79	SX396	1	土製品	土製円盤	L撚糸文	37×32×9㎜　12g	63-10

№	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ(㎝)　重さ(g)	備　考	写真図版
8	Ka-d2-2	SX394	－	打製石器	石匙	珪質頁岩	(2.7)×4.7×0.7　(8.0)	横型、つまみ部欠損。	63-６

第251図　性格不明遺構出土遺物





No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-1044	SX397	－	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部-沈線文区画・「O」字縄文・LR縄文　底部-ナデ		63-11
2	A-1075	SX397	－	縄文土器	深鉢	口縁部-橋状把手	内外面に赤彩残る。	63-12

第252図　SX397埋設土器出土遺物

縄文＋Ｒ撚糸文）が施文される。文様は沈線文で構成され渦巻文や区画文がみられる。９は浅鉢形のミニチュア土器である。10の土製円盤は、胴部破片を打ち欠いて成形される。

Ⅸ層出土土器（第257図11、図版66）

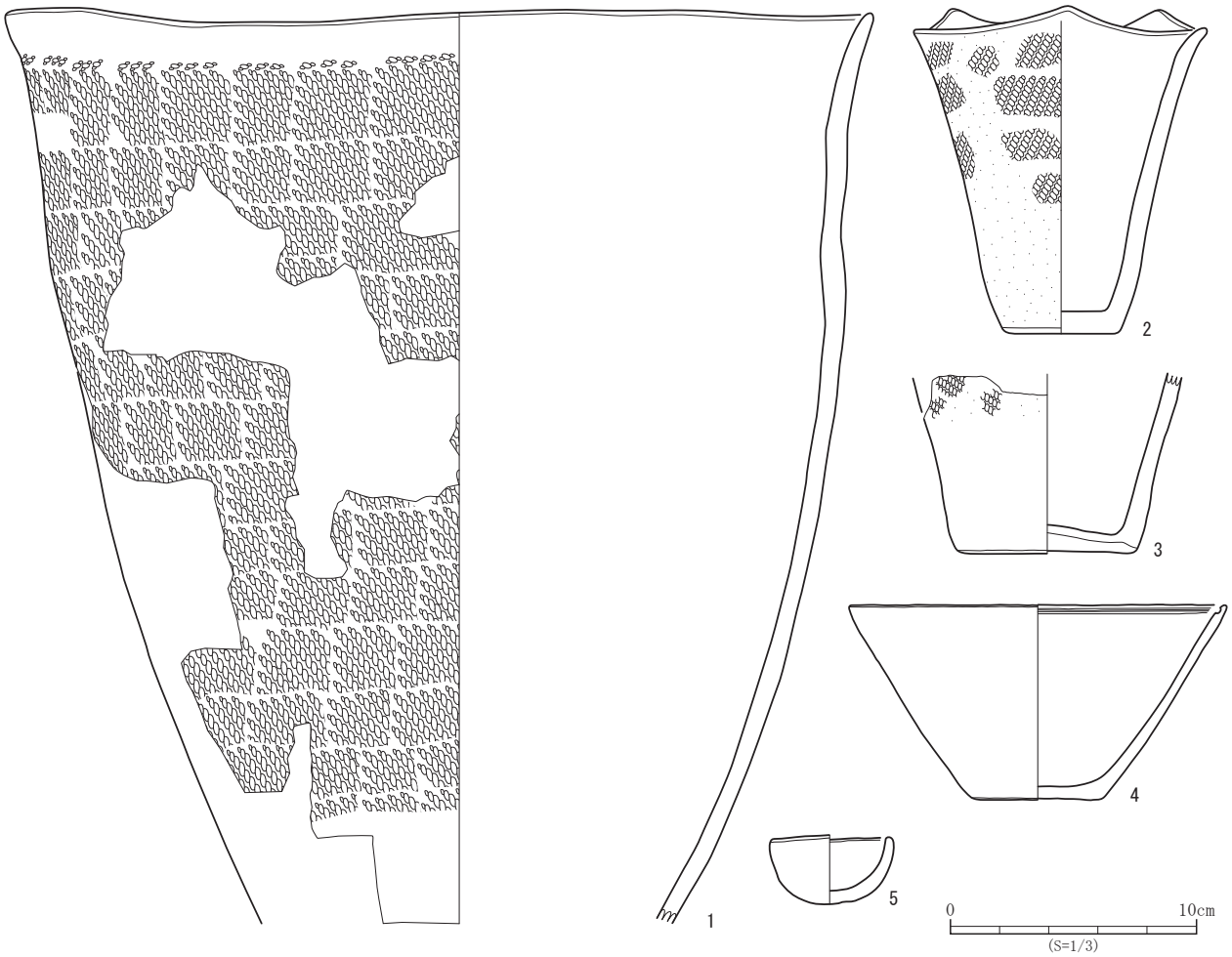
縄文土器１点を示した。口縁部が「く」の字に屈折する鉢で幅狭の沈線の間に縄文が施文される。

Ⅹ層出土土器（第257図、図版66）

縄文土器１点、土製円盤１点を示した。第257図12は口縁部が内傾する器形の深鉢で沈線文区画の無文帯を有し、区画内には刺突文が施文される。13の土製円盤は胴部破片を利用し、打ち欠いて成形されている。

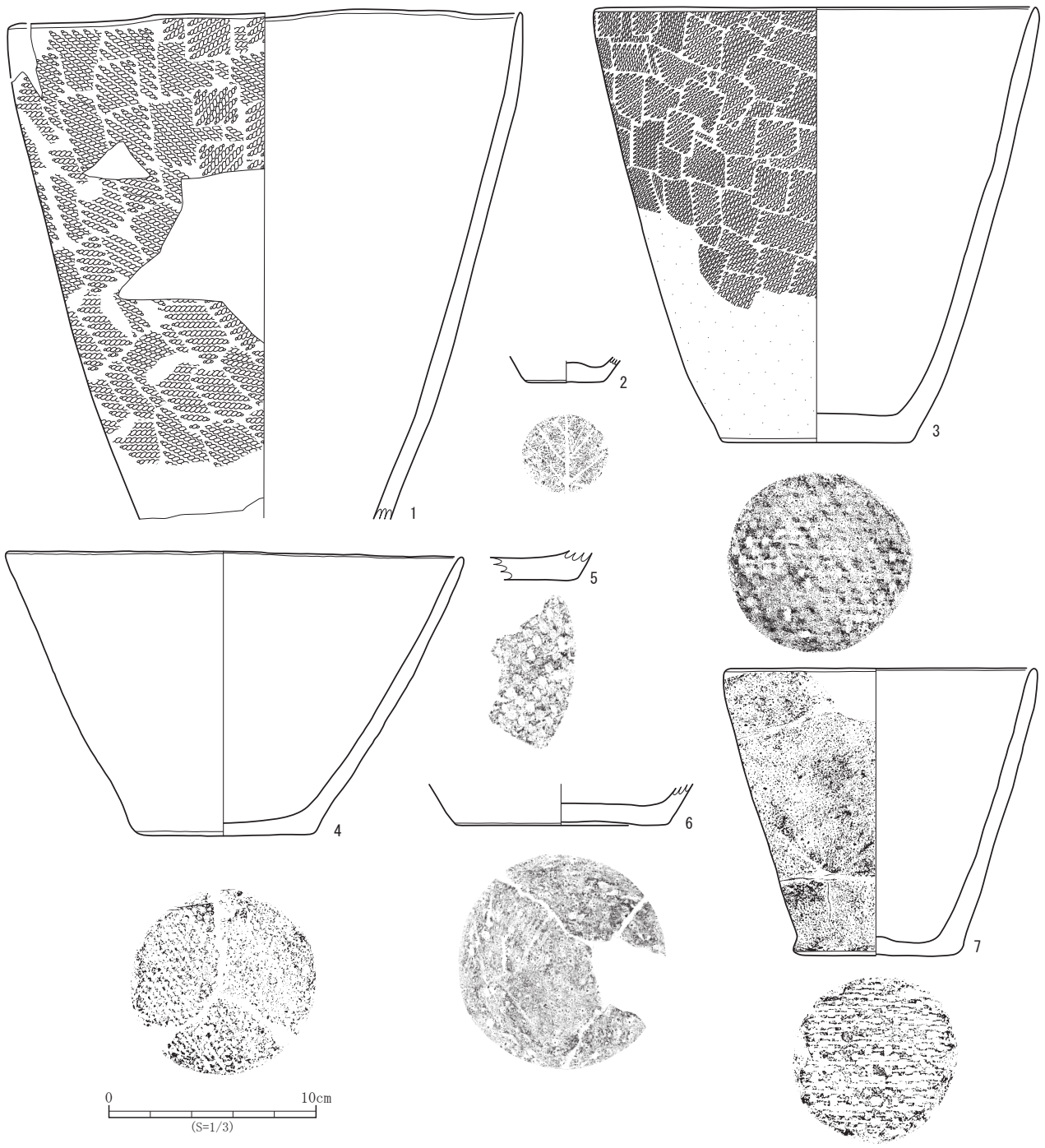
Ⅲ～Ⅶ層出土土器・土製品（第258図、図版66）

縄文時代の遺構検出面よりも上層から出土した遺物である。縄文土器７点、土製円盤３点を第258図に図示した。１・２は山形突起である。１は口縁下に沈線文が巡り、２は幅狭の平行沈線文が巡る。３は平口縁で外面には帯縄文、内面には１条の沈線が巡る。４は小型土器の底部で、笹状の敷物の圧痕が残る。５・６は胴部破片で、６は沈線で幾何学文が描かれ、沈線間の縄文が磨消されている。７～９は土製円盤で、胴部破片を利用して成形されている。これらの土器は文様施文の特徴から縄文時代後期中葉に位置づけられる。



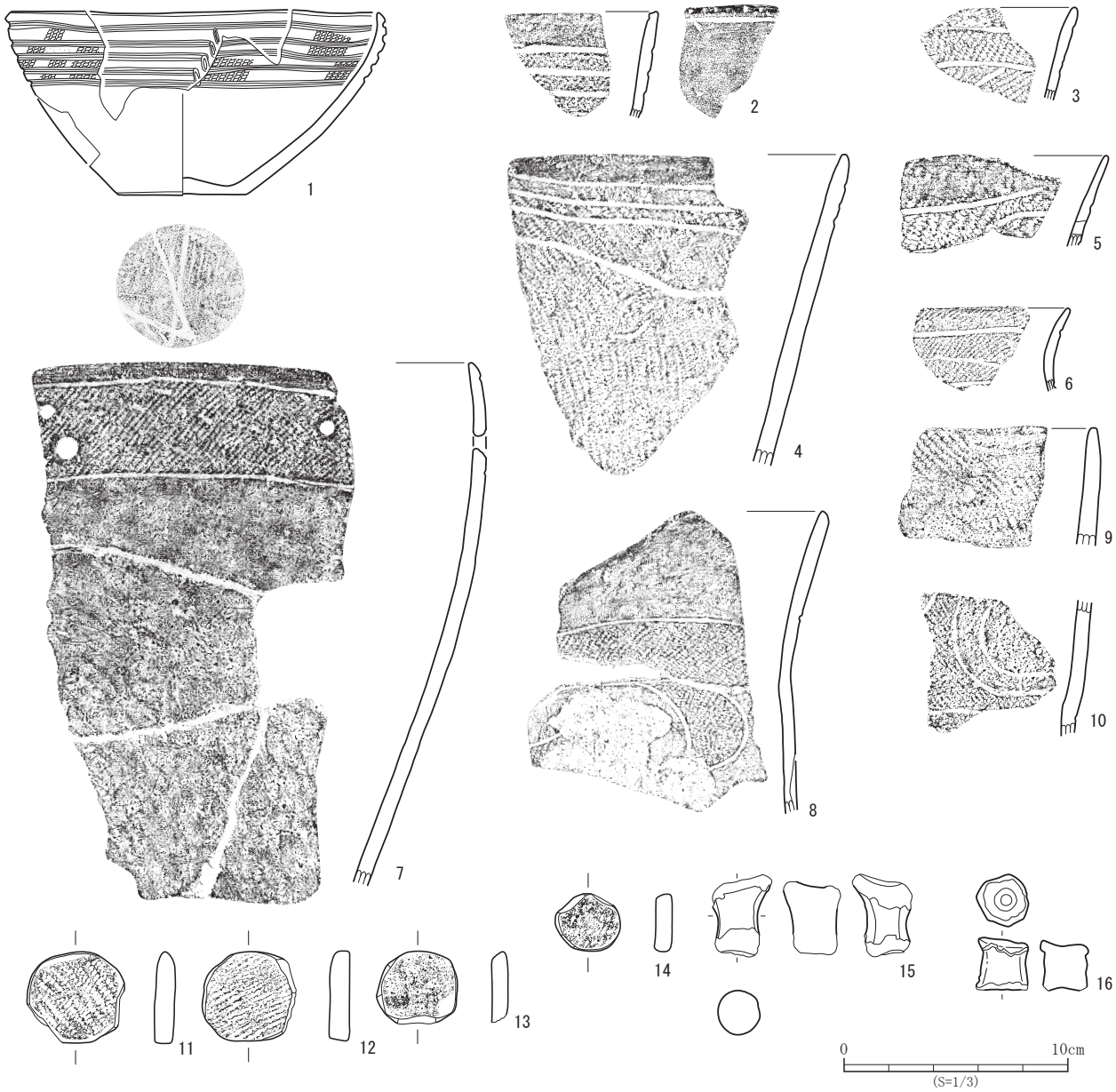
No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-802	Ⅶ	W290・S145	縄文土器	深鉢	口縁～胴部-押圧縄文・RL縄文		64-1
2	A-1089	Ⅶ	W300・S140	縄文土器	小型土器	口縁～胴部-山形突起・波状口縁・LR縄文　底部-ナデ		64-2
3	A-1088	Ⅶ	W300・S140	縄文土器	深鉢	胴部-RL縄文　底部-ナデ		64-3
4	A-1090	Ⅶ	W295・S145	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部-ナデ　底部-ナデ		64-4
5	P-90	Ⅶ	W295・S145	縄文土器	ミニチュア	ナデ	丸底。	64-5

第253図　Ⅶ層出土土器（１）



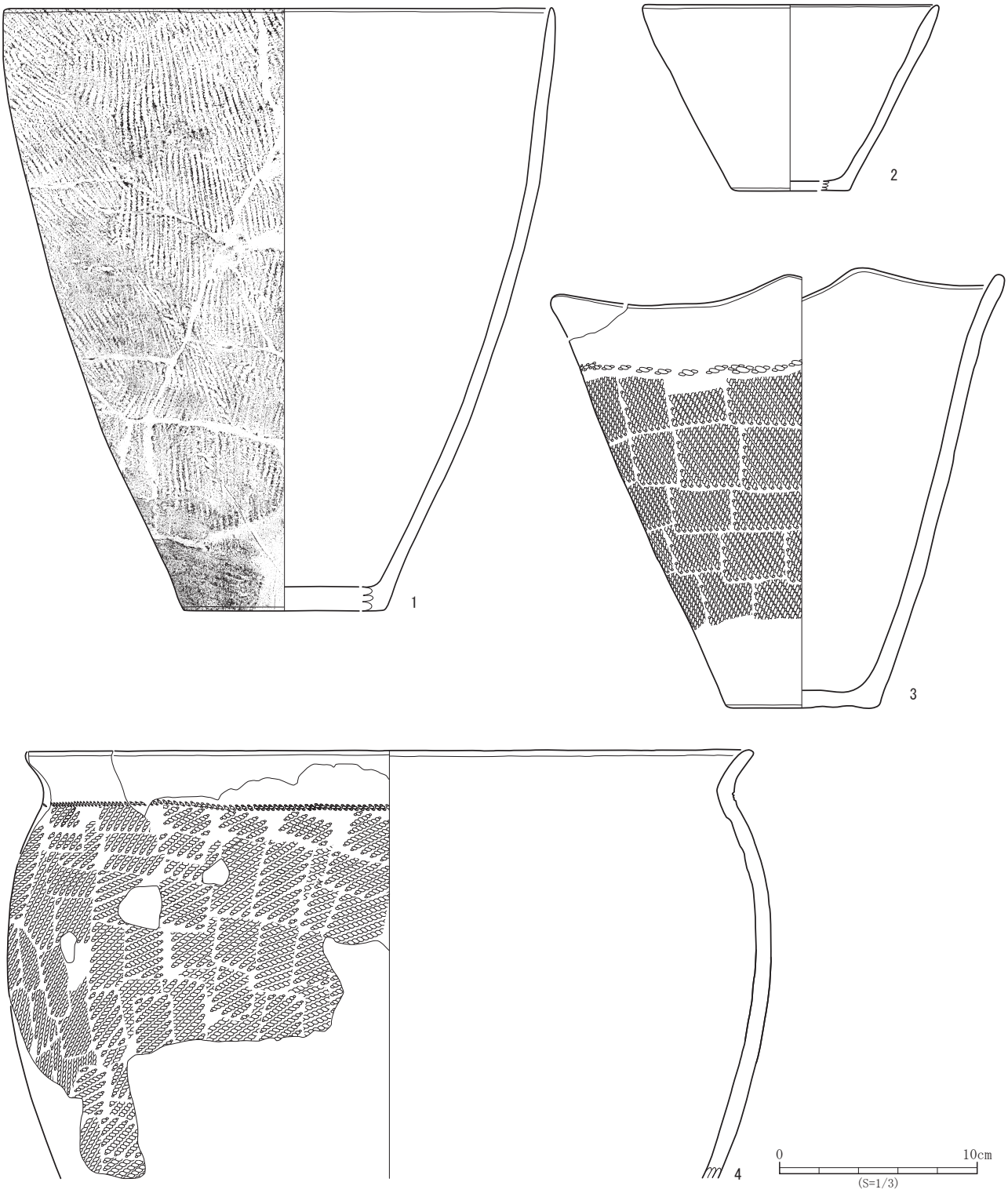
No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-801	Ⅶ	W295・S145	縄文土器	深鉢	口縁～胴部-LR縄文		64-6
2	A-1079	Ⅶ	W290・S145	縄文土器	小型土器	底部-木葉痕	中央トレンチ。	64-7
3	A-1043	Ⅶ	W295・S145	縄文土器	深鉢	口縁～胴部-LR縄文　底面-網代痕		64-8
4	A-1038	Ⅶ	W295・S145	縄文土器	浅鉢・完形	口縁～胴部-ナデ　底面-網代痕		64-9
5	A-1061	Ⅶ	W280・S145	縄文土器	深鉢	底部-網代痕		-
6	A-1081	Ⅶ	W295・S145	縄文土器	深鉢	底部-ナデ		-
7	A-1047	Ⅶ	W295・S145	縄文土器	深鉢・完形	口縁～胴部-ナデ　底部-網代痕		64-10

第254図　Ⅶ層出土土器（２）



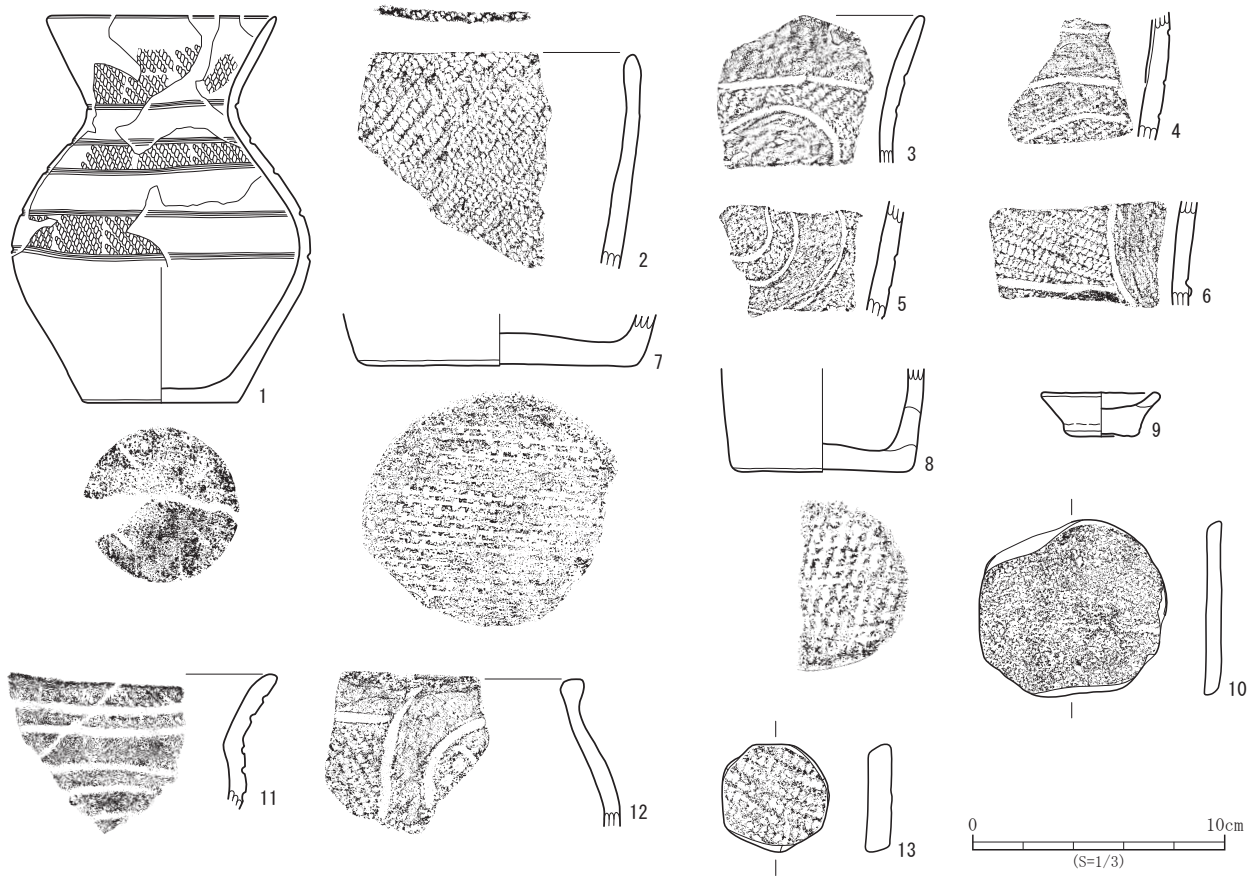
No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-1037	Ⅶ	W295・S145	縄文土器	浅鉢	口縁部-「クランク」状沈線文・RL縄文 胴部-ナデ・ミガキ 底部-網代痕		65-1
2	A-1062	Ⅶ	W280・S145	縄文土器	深鉢	口縁部-平行沈線文区画・LR縄文　口縁部内面に沈線文		65-2
3	A-1078	Ⅶ	W295・S150	縄文土器	深鉢	口縁部-沈線文区画・LR縄文		65-3
4	A-1082A	Ⅶ	W295・S145	縄文土器	深鉢	波状口縁・沈線文・RL縄文（直前段半撚）		65-4
5	A-1080B	Ⅶ	W285・S145	縄文土器	深鉢	口縁～胴部波状口縁・沈線文・LR縄文	中央トレンチ。	65-5
6	A-1080C	Ⅶ	W285・S145	縄文土器	深鉢	口縁部-沈線文・LR縄文	中央トレンチ。	65-6
7	A-1082B	Ⅶ	W295・S145	縄文土器	鉢	口縁部-沈線文区画・LR縄文	補修孔３ヶ所あり、内１ヶ所は未貫通。	65-7
8	A-1083	Ⅶ	W300・S140	縄文土器	深鉢	口縁部-山形突起・沈線文・RL縄文		65-8
9	A-1077	Ⅶ	W285・S145	縄文土器	深鉢	口縁部-RL縄文		65-9
10	A-1076	Ⅶ	W285・S145	縄文土器	深鉢	胴部-沈線文区画・RL縄文	中央トレンチ。	65-10
11	P-80	Ⅶ	W290・S145	土製品	土製円盤	RL縄文	41×40×8㎜　16g	65-11
12	P-89	Ⅶ	W285・S145	土製品	土製円盤	L縄文	40×38×9㎜　18g	65-12
13	P-86	Ⅶ	W295・S145	土製品	土製円盤	ナデ	35×31×7㎜　11g	-
14	P-85	Ⅶ	W295・N145	土製品	土製円盤	R撚糸文	28×25×7㎜　6g	65-13
15	P-94	Ⅶ	W285・S145	土製品	不明	ナデ	土偶脚か？	65-14
16	P-93	Ⅶ	W295・N145	土製品	耳栓	ナデ	臼形・23×23×22㎜	65-15

第255図　Ⅶ層出土土器（３）



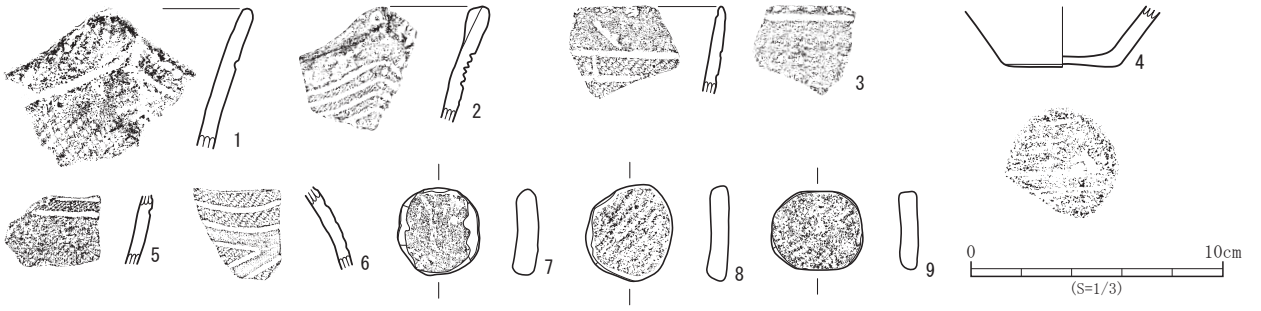
№1	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-1042	Ⅷ	W285・S145	縄文土器	深鉢	口縁～胴部-L縄文	№15	65-16
2	A-1067	Ⅷ	W300・S140	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部-ナデ・ミガキ　底部-網代痕		65-17
3	A-1041	Ⅷ	W290・S145	縄文土器	深鉢	口縁部-山形突起・波状口縁・押圧縄文　胴部-RL縄文　底部-ナデ	№13	65-18
4	A-1040	Ⅷ	W295・S145	縄文土器	深鉢	口縁部-押圧縄文　胴部-RL縄文		66-1

第256図　Ⅷ層出土土器



No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-1051	Ⅷ	W290・S145	縄文土器	壺	口縁～胴部-沈線文・RL縄文　底部-木葉痕		66-2
2	A-1063B	Ⅷ	W290・S145	縄文土器	深鉢	口縁部-付加条文（LR縄文＋R撚糸文）		66-3
3	A-1068	Ⅷ	W300・S140	縄文土器	深鉢	口縁部-波状口縁・沈線文区画・LR縄文		66-4
4	A-1057	Ⅷ	W300・S145	縄文土器	深鉢	胴部-沈線文区画・RL縄文	内面剥離。	66-5
5	A-1063A	Ⅷ	W290・S145	縄文土器	深鉢	胴部-区画沈線文・RL縄文		66-6
6	A-1069	Ⅷ	W295・S150	縄文土器	深鉢	胴部-沈線文・LR縄文		66-7
7	A-1064	Ⅷ	W290・S145	縄文土器	深鉢	底部-網代痕		66-10
8	A-1066	Ⅷ	W290・S145	縄文土器	深鉢	胴部-ナデ　底部-網代痕		66-9
9	P-91	Ⅷ	W290・S145	土製品	ミニチュア	ナデ	浅鉢形	66-8
10	P-87	Ⅷ	W290・S145	土製品	土製円盤	RL縄文	73×67×7㎜　42g	66-11
11	A-1084	Ⅸ	W300・S140	縄文土器	鉢	口縁～胴部-波状口縁・沈線文・RL縄文	器面の摩滅が激しい。	66-12
12	A-1071	Ⅹ	W300・S140	縄文土器	深鉢	口縁部-沈線文・「O」字状文・刺突文・LR縄文		66-13
13	P-84	Ⅹ	W300・S140	土製品	土製円盤	LR縄文	41×40×9㎜　21g	66-14

第257図　Ⅷ～Ⅸ層出土土器



No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-1085	表土	表採	縄文土器	深鉢	口縁部-山形突起・波状口縁・沈線文・LR縄文		66-15
2	A-1059	Ⅳ～Ⅵ	W285・S145	縄文土器	深鉢	口縁部-山形突起・平行沈線文・刺突文・刻目・L縄文		66-16
3	A-1072A	Ⅵ	W285・S145	縄文土器	深鉢	口縁部-平行沈線文・縦位沈線文・RL縄文		66-17
4	A-1058	Ⅲ	W300・S140	縄文土器	小型土器	胴部-ナデ　底部-網代痕		66-18
5	A-1072B	Ⅵ	W285・S145	縄文土器	深鉢	口縁部-沈線文・RL縄文		66-19
6	A-1072C	Ⅵ	W285・S145	縄文土器	壺・胴部	胴部-沈線文・RL縄文		66-20
7	P-82	Ⅴ	W280・S145	土製品	土製円盤	LR縄文・ナデ	33×30×9㎜　11g	66-21
8	P-88	Ⅵ	W290・S145	土製品	土製円盤	RL縄文	37×33×8㎜　11g	66-22
9	P-83	Ⅵ・Ⅶ	W280・S145	土製品	土製円盤	RL縄文	35×30×7㎜　9g	66-23

第258図　表採～Ⅶ層出土遺物

石　器

Ⅵ～Ⅷ層出土石器（第259・260図、図版66）

出土した石器は計51点である。器種別の内訳は、石鏃２点、不定形石器８点、二次加工のある剥片４点、微細剥離痕のある剥片２点、剥片16点、石核２点、磨石１点、凹石４点、石錘12点であり、その内の石鏃２点、不定形石器３点、磨石１点、凹石１点、石錘10点を第259・260図に図示した。本層から出土した石器群の大きな特徴としては、石錘がまとまって出土している点が上げられる。

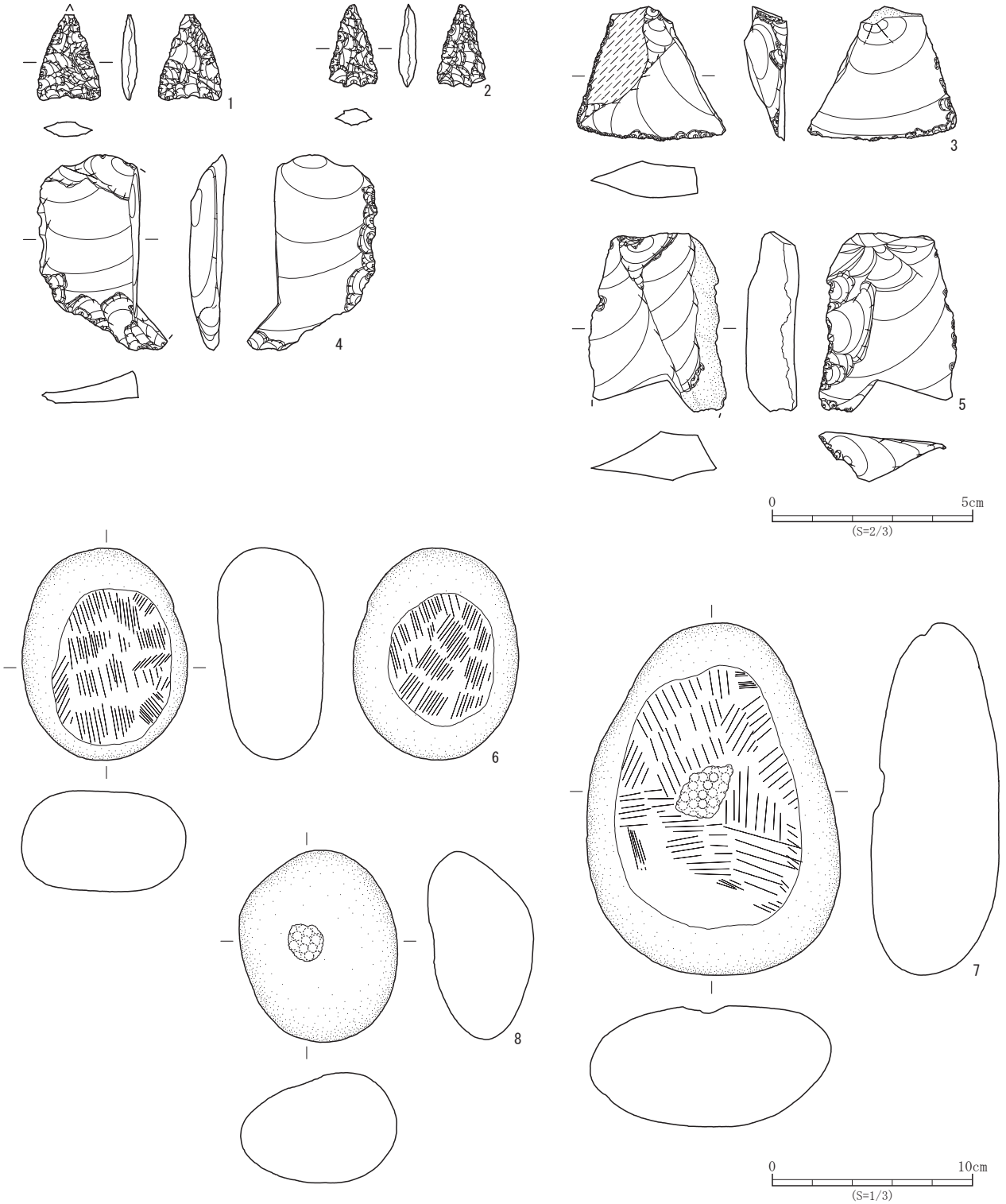
第259図１・２は石鏃である。１は僅かに基部に抉りが認められることから凹基鏃に含め、２は平基鏃とした。調整加工はいずれも表裏に施されるが、２の加工はやや粗い。３～５は不定形石器である。いずれも側縁を中心に連続した二次加工を施して刃部を作出した削器である。４は右側縁を欠損するが、左側縁から下部にかけての二次加工は表裏違えて施されており、裏面左側縁の刃部はやや鋸歯状を呈する。５も下半部を欠損するが、裏面左側縁にやや粗い二次加工を施して刃部を作出している。６は磨石である。やや扁平な楕円礫の表裏の平坦面に研磨痕が観察される。７・８は凹石である。やや扁平な楕円礫の片面の中央部に１ヶ所の凹みが認められる。なお、７には凹みよりも古い研磨痕が観察される。第260図１～10は石錘であり、Ｗ290・Ｓ145グリッドからまとまって検出されている。基本的に小型の扁平礫を素材とし、その短軸のほぼ中央部に敲打と剥離による抉りを作出しているものである。１～８は長さ５㎝前後の大きさが選択された扁平礫を用いたものであり、両側縁に剥離による調整加工が認められるもので､特に１～４では抉り部の稜線や両側縁の抉り部を結ぶ自然面にすれ状の擦痕も観察されている。また、４～８は長軸の片端部にも剥離や敲打による加工が施されている。９・10は１～８よりもやや大きめの８㎝前後の扁平礫を素材とした石錘である。短軸の側縁に加工が施されたものであるが、９では両側縁に剥離と敲打による加工が認められるが、抉り部を作出するまでには至っていない。10は右側縁には剥離と敲打による浅い抉りが認められるが、左側縁には加工が施されていない。

Ⅷ～Ⅹ層出土石器（第261図、図版67）

出土した石器は計11点である。器種別の内訳は不定形石器２点、石篦１点、二次加工のある剥片１点、剥片３点、磨石１点、凹石１点、石皿１点、石英原石１点であり、その内の不定形石器２点、石篦１点、磨石１点、凹石１点、石皿１点を第261図に図示した。１・２は不定形石器である。１は上半部を欠損するが、側縁から下端部にかけて連続した二次加工を施して刃部を作出した削器である。２は削器であり、側縁から下端部にかけて連続した二次加工を施して刃部を作出している。なお、打面部を折り取っている。３は石篦である。残された素材面から裏面側を表側に用いているものと考えられる。調整加工は全面加工が施された裏面側では器体の中央部に稜を持つやや急角度の二次加工が施され、正面の剥離は素材面を残すやや平坦な剥離である。刃部の加工が裏面から正面の加工が主体となっており、縦断面形は図の正面が表面になる片刃状となる。４は磨石である。やや扁平な楕円礫の片面の平坦面に研磨痕が観察される。なお、研磨面の中央には研磨より古い敲打痕が２ヶ所認められる。５は凹石である。やや扁平な楕円礫の平坦面に表面６ヶ所、裏面８ヶ所の凹みが認められる。６は脚付石皿の欠損品である。使用面が皿状に窪む石皿であり、裏面には長さ約7.5㎝、幅3.5㎝、高さ3.5㎝の脚部がやや内側に向かって作出される。欠損品であるために脚部は２ヶ所が残存するだけであるが、本来は４ヶ所の脚部がＸ字状に作出されていたものと考えられる。また、脚部は粗割後の敲打による整形で作り出されたものと考えられ、底面には擦痕も観察される。

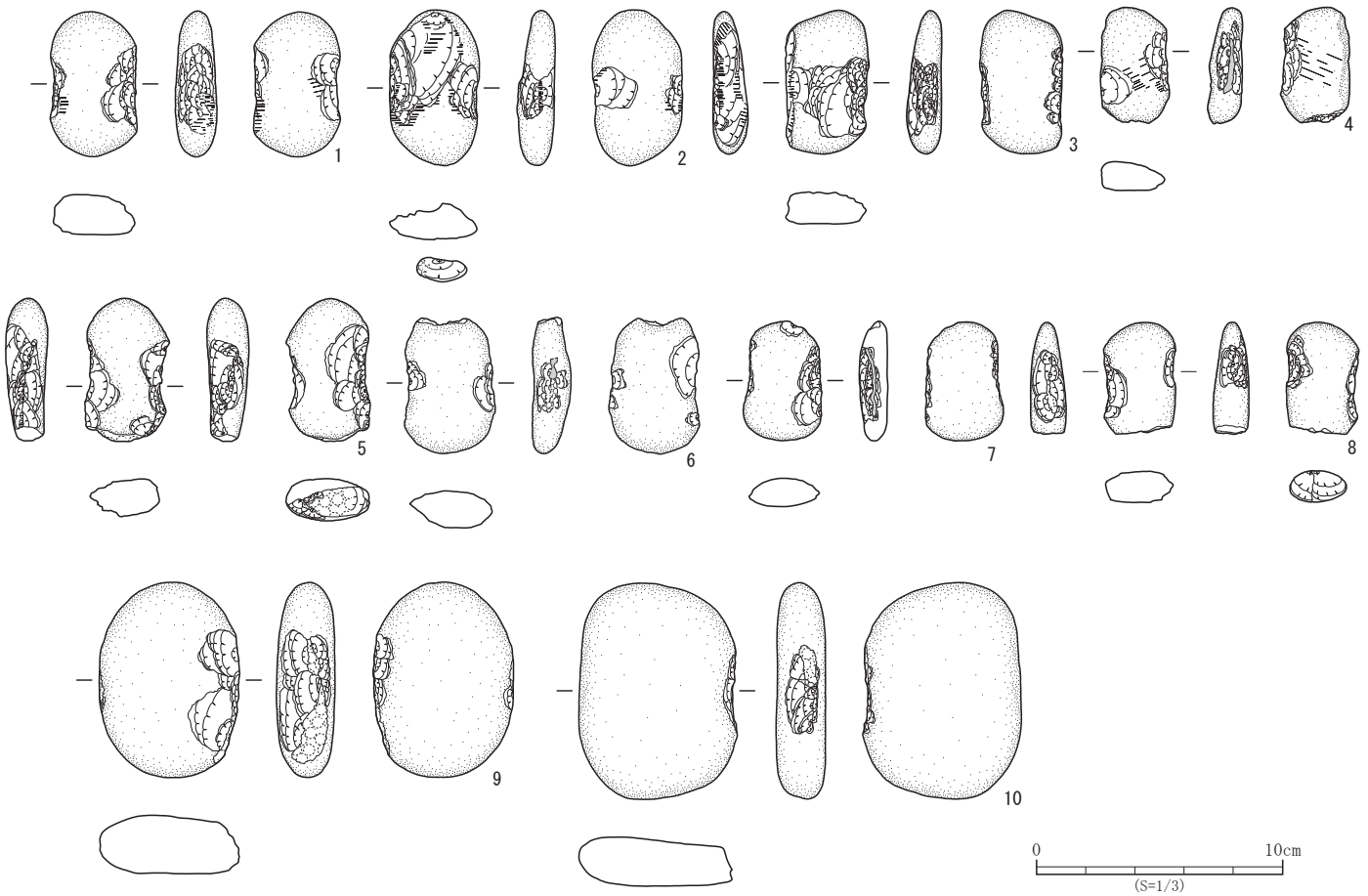
Ⅲ層出土石器（第262図）

古代の遺構及び包含層から出土した石器は計18点である。器種別の内訳は不定形石器１点、二次加工のある剥片５点、剥片８点、磨石１点、凹石１点、石錘２点であり、そのうち磨石１点、凹石１点、石錘１点を第262図に図示した。１は磨石である。やや扁平な楕円礫の表裏の平坦面に研磨痕が観察される。研磨面には研磨より古い敲打痕が表に２ヶ所、裏面に３ヶ所認められる。２は凹石である。やや扁平な楕円礫の表裏の平坦面に１ヶ所ずつ凹み



No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)	備　考	写真図版
1	Ka-a3-19	Ⅶ	W290・S145	打製石器	石鏃	凝灰岩	(2.1)×1.6×0.4　(0.8)	凹基鏃、先端部欠損。	66-24
2	Ka-a2-4	Ⅶ	W290・S145	打製石器	石鏃	珪質頁岩	2.0×1.2×0.4　0.6	平基鏃。	66-25
3	Ka-e1-33	Ⅶ	W290・S145	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	3.3×3.7×1.1　8.5	削器。	66-26
4	Ka-e1-34	Ⅵ	W285・S145	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	4.8×(3.3)×0.9　(9.1)	削器、右側縁欠損。	66-27
5	Ka-e1-35	Ⅶ	W285・S145	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	(4.4)×(3.4)×(1.3)　(18.7)	削器、下部欠損。	66-28
6	Kc-a-27	Ⅷ	W290・S145	礫石器	磨石	安山岩	10.4×8.1×5.2　685.0	磨1+Ⅰ。	66-29
7	Kc-b-24	Ⅷ	W290・S145	礫石器	凹石	安山岩	17.3×12.3×5.9　1,631.0	磨1+0、凹1+0。	66-31
8	Kc-b-25	Ⅶ	W290・S145	礫石器	凹石	安山岩	9.5×7.8×5.4　493.0	凹1+0。	66-30

第259図　Ⅵ～Ⅷ層出土石器（１）

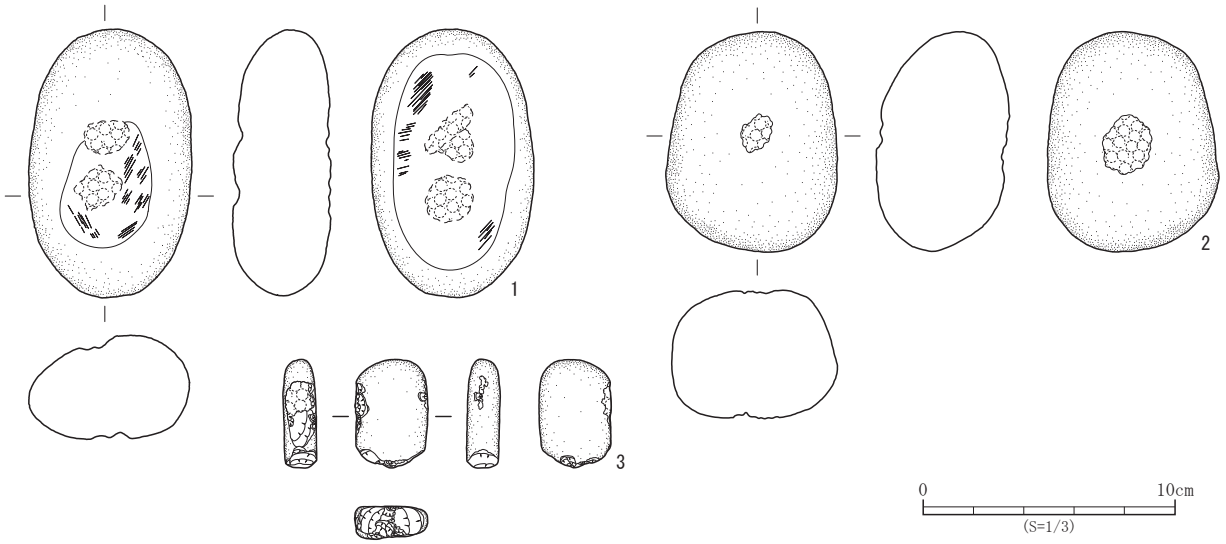


No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)	備　考	写真図版
1	Kc-e-1	-	-	礫石器	石錘	安山岩	5.8×3.5×1.6　47.0	ひも掛け状の擦痕あり、縦長剥片素材。	67-1
2	Kc-e-2	Ⅶ	W290・S145	礫石器	石錘	凝灰岩	6.2×3.6×1.5　42.0	ひも掛け状の擦痕あり。	67-2
3	Kc-e-3	Ⅶ上面	W290・S145	礫石器	石錘	安山岩	5.8×3.4×1.3　37.0	ひも掛け状の擦痕あり。	67-3
4	Kc-e-4	Ⅵ	W290・S145	礫石器	石錘	安山岩	4.5×2.7×1.3　22.5	ひも掛け状の擦痕あり。	67-4
5	Kc-e-5	Ⅶ上面	W290・S145	礫石器	石錘	凝灰岩	5.7×3.4×1.7　38.4	下面に敲打痕あり。	67-5
6	Kc-e-6	Ⅵ	W290・S145	礫石器	石錘	凝灰岩	5.5×3.7×1.6　39.7	上面に加工あり。	67-6
7	Kc-e-7	Ⅵ	W290・S145	礫石器	石錘	安山岩	4.7×3.1×1.1　23.3	上面に加工あり。	67-7
8	Kc-e-8	Ⅶ	W290・S145	礫石器	石錘	砂岩	4.5×2.9×1.5　27.7	下面に加工あり。	67-8
9	Kc-e-9	Ⅷ	W285・S145	礫石器	石錘	安山岩	7.8×5.6×2.4　138.0		67-9
10	Kc-e-10	Ⅷ	W290・S145	礫石器	石錘	安山岩	8.7×6.4×2.0　181.0	左側縁加工なし。	67-10

第260図　Ⅵ～Ⅷ層出土石器（２）

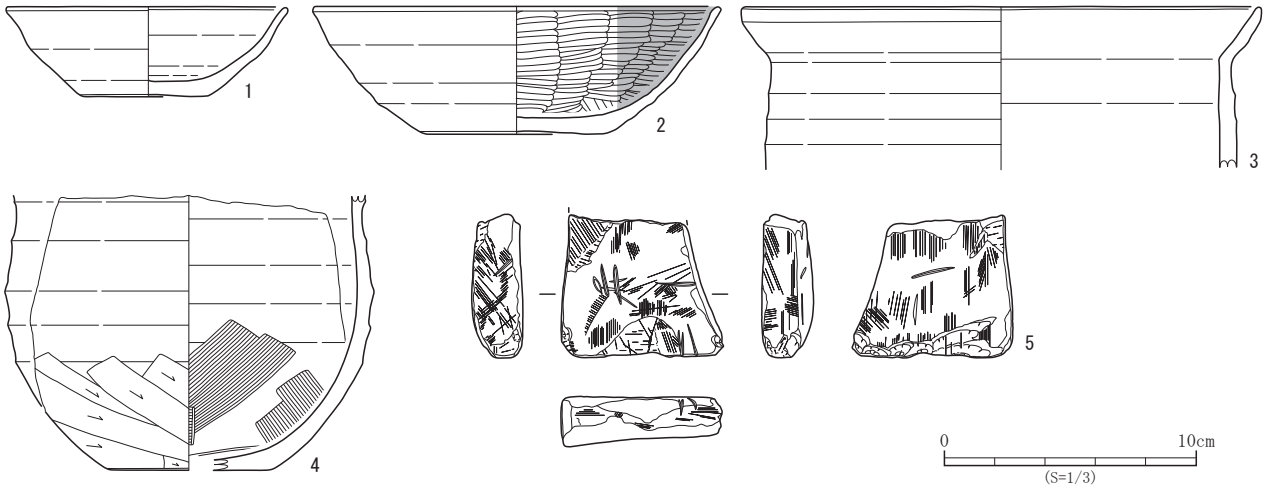
№	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)	備　考	写真図版
1	Ka-e1-36	X	W300・S140	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	(7.1)×(3.5)×(1.2)　(20.5)	削器、上部欠損。	67-11
2	Ka-e1I-37	Ⅷ～X	W295・S145	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	3.9×1.5×0.8　3.9	削器、石刃状剥片素材。	67-12
3	Ka-f2-5	X	W300・S145	打製石器	石篦	珪質頁岩	3.8×1.8×1.0　8.0	半両面加工、背面中央部に素材面を残す。	67-13
4	Kc-a-28	Ⅸ	W300・S140	礫石器	磨石	安山岩	12.0×6.8×5.3　648.0	磨1+0、敲2+0。	67-14
5	Kc-b-26	Ⅸ	W300・S140	礫石器	凹石	安山岩	12.2×8.9×5.5　535.0	凹6+8、全面被熱痕あり。	67-15
6	Kc-f-6	X	W300・S140	礫石器	石皿	デイサイト	(13.9)×(17.7)×(6.6)　(570.0)	脚付石皿部分破片。	67-16

第261図　Ⅷ～X層出土石器



№	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)	備　考	写真図版
1	Kc-a-29	Ⅲ	W290・S150	礫石器	磨石	安山岩	10.3×6.4×4.0　355.0	磨1+1、凹2+3。	67-17
2	Kc-b-27	Ⅲ	SI356	礫石器	凹石	安山岩	8.6×6.7×5.2　371.0	凹1+1。	67-18
3	Kc-e-11	Ⅲ	SI356	礫石器	石錘	凝灰岩	4.2×2.9×1.3　26.8	下面に加工あり。	67-19

第262図　Ⅲ層出土石器



№	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	D-54	表採	-	赤焼土器	坏	11.0×(5.0)×(3.4)	ロクロナデ・底部回転糸切り	ロクロナデ		67-20
2	D-55	-	SK365	土師器	坏	16.0×6.8×5.0	ロクロナデ　底部回転糸切り	ヘラミガキ・黒色処理		67-21
3	D-56	-	SK365	土師器	甕	(20.4)×-×現6.4	ロクロナデ	ロクロナデ		67-22
4	D-57	-	SK365	土師器	甕	-×6.6×現10.7	ロクロナデ・ヘラケズリ	ヘラナデ		67-23

№	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	長さ×幅×厚さ(cm)　重量(g)	石　材	備　考	写真図版
5	Kd-a-14	-	W290・S150	石製品	砥石	(5.7)×(6.4)×(2.0)　(94.0)	凝灰岩		67-24

第263図　古墳時代～古代出土遺物

が認められるものである。３は石錘である。凝灰岩の小型扁平礫を素材とし、その側縁に敲打を中心とした加工が施されるものであるが、左側縁の抉りは浅く、右側縁の敲打は形状をほとんど変えるものではない。また、器体の下面部にも加工が認められる。

古墳時代～古代（第263図）

Ⅲ層から土師器内黒坏小片、赤焼土器片、ロクロ土師器甕片、須恵器甕片、Ⅲ～Ⅳ層から土師器内黒坏片、土師器甕片、Ⅳ～Ⅵ層から土師器甕片等が出土している。このうち、表土から須恵器坏１点、Ⅲ～Ⅳ層からロクロ土師器坏１点、甕２点、砥石１点を第263図に図示した。１は赤焼土器である。２はロクロ土師器の坏である。３・４はロクロ土師器の甕である。５は上半を欠損する横断面長方形の砥石である。表裏両側面に顕著な研磨面が観察される。

11.　４Ｂ区の調査

４Ｂ区では基本層Ｖ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡１軒、ピット４基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

（１）Ｖ層検出の遺構と遺物（第266図）

１）竪穴住居跡

SI398 竪穴住居跡（第264図）

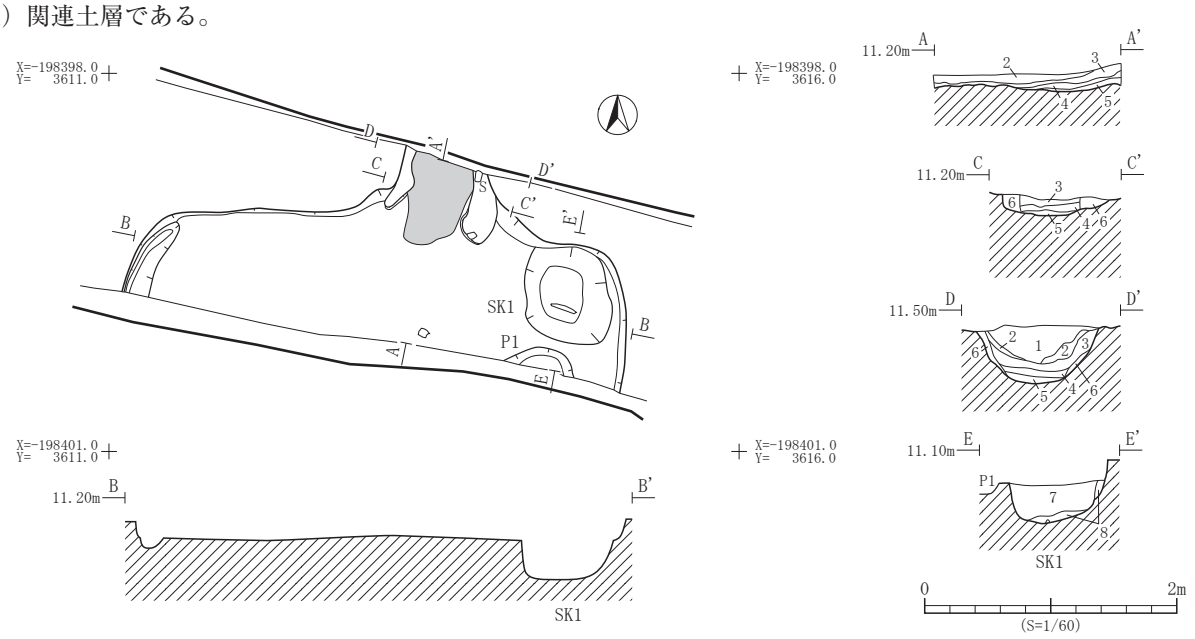
［位置］Ｗ190・Ｎ0-S0～Ｎ10グリッドに位置するが、北側と南側が調査区域外に延びている。

［新旧関係］現状では本住居跡と重複する遺構はない。

［規模・平面形］東西は4.05mであるが、南北は不明である。方形を基調としていると思われる。

［主軸方位］Ｎ-８°-Ｅと考えられる。

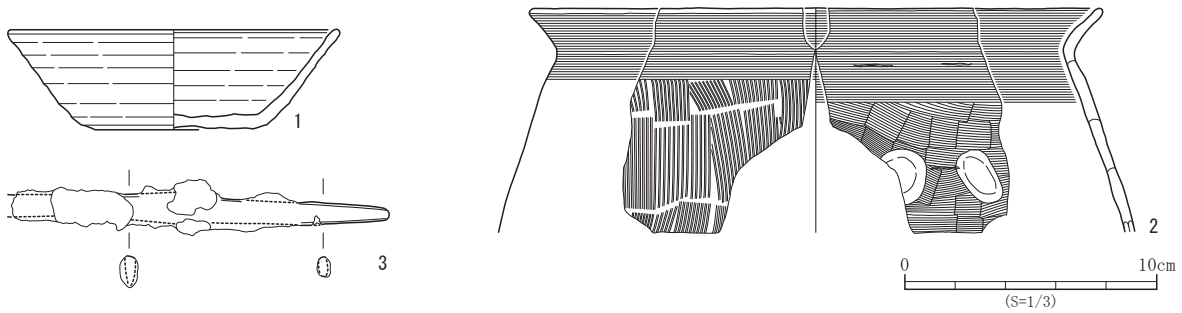
［堆積土･構築土］８層に分層される。１～２層は住居堆積土で、３～６層はカマド関連土層、７～８層はSK１（貯蔵穴）関連土層である。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI398	1	10YR4/4褐色	粘土	焼土・明赤褐色シルト小ブロックを含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土・明赤褐色シルト小ブロックを含む。
	3	10YR3/3暗褐色	粘土	明赤褐色シルト大ブロック･赤黒色シルトブロックを含む。
	4	5YR3/2暗赤褐色	粘土	粘性が強い。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI398	5	10YR5/4にぶい黄褐色	粘土	炭化物・焼土を含む。
	6	10YR3/4暗褐色	粘土	明赤褐色焼土ブロック。（カマド袖部）
	7	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土	明赤褐色焼土ブロック・黒色粘土を含む。
	8	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土	遺物が出土。（７・８層貯蔵穴）

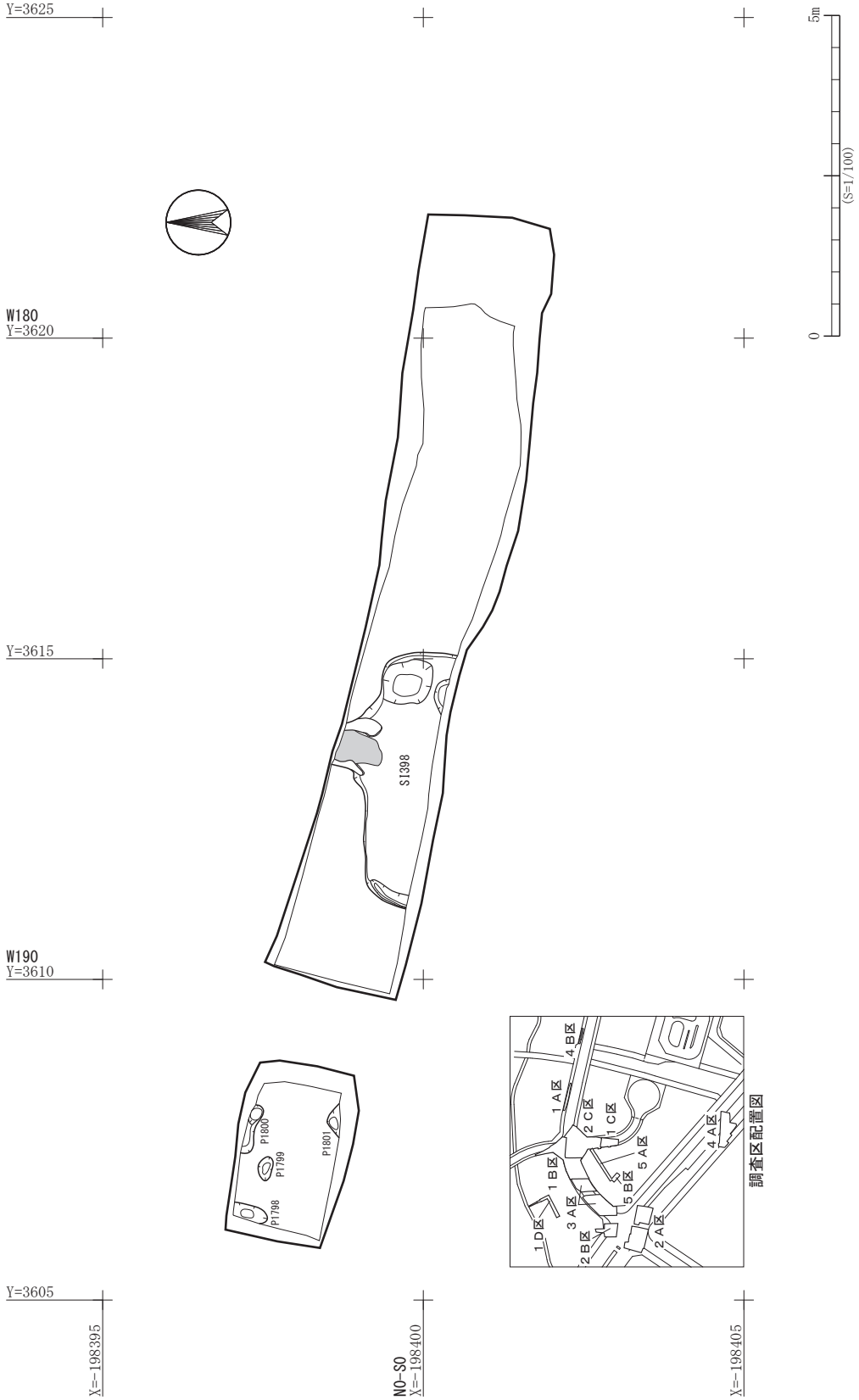
第264図　SI398竪穴住居跡平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	E-19	SI398　SK1	1	須恵器	坏	12.8×6.2×3.95	ロクロナデ　底部ヘラ切り	ロクロナデ	火ダスキ痕。	67-25
2	C-66	SI398	-	土師器	甕	(22.4)×－×現8.8	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ヘラナデ・指オサエ		67-26

No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	残長×幅×厚さ（cm）	備　考	写真図版
3	N-4	SI398	-	鉄製品	刀子	14.9×1.1×0.3		67-27

第265図　SI398竪穴住居跡出土遺物



第266図　下ノ内遺跡４Ｂ区Ｖ層遺構配置図

［壁面］西壁と東壁の下半はほぼ垂直に立ち上がるが、東壁上半は緩やかになる。壁高は20cmほどである。

［床面］掘り方の底面であるⅤ層を直接床面としている。

［柱穴］ピット１個を検出した。深さは23cmであるが、南側が調査区域外に延びているため詳細は不明である。

［周溝］西壁際から検出した。規模は幅10～18cm、深さは７～11cmである。

［カマド］住居跡北壁中央のやや東寄りに付設される。住居北壁から燃焼部が張り出す形態のものであるが、北側が調査区域外に及んでいることから詳細は不明である。火床面全体に焼土が広がっている。

［その他の施設］住居跡内から土坑１基（SK１）を検出した。

［出土遺物］堆積土から須恵器坏１点、土師器甕１点、刀子１点が出土し、第265図に図示した。１は須恵器坏である。平底で外面に火ダスキ痕がある。２は土師器甕の口縁部片である。３は刀子である。先端を一部欠く。

２）ピット（第266図）

４基のピット（P1798～1801）を検出した。調査区西側のW191・N10に分布している。遺物は出土していない。

（２）遺構外出土の遺物（第267図、図版67）

４B区ではSI398の混入品として縄文土器が出土し、第267図に図示した。小波状口縁の浅鉢または鉢で入組文がみられる。縄文時代晩期に属する。

No.	登録番号	層　位	出土遺構	種　別	器　種
1	A-1092	-	-	縄文土器	鉢
文　様　等				備　考	写真図版
口縁部-小波状口縁・沈線文・RL縄文					67-28

第267図　遺構外出土遺物

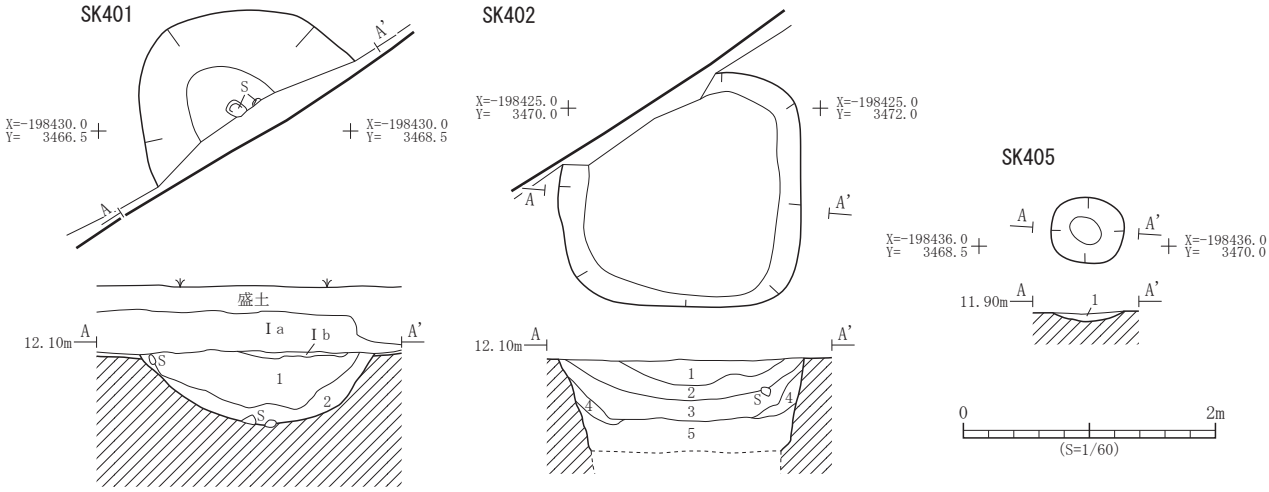
12.　５A・５B区の調査

５A・５B区では基本層Ⅲ・Ⅳ層上面（古代～近世の遺構検出面）において、土坑３基、溝跡４条、ピット28基を検出した。Ⅴ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において遺構確認調査のみを行い、土坑５基、溝跡４条、ピット38基を確認した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

（１）Ⅲ・Ⅳ層検出の遺構と遺物（第271図、図版21）

１）土　坑

SK401土坑（第268図）　W340・S20～30グリッドで検出したが、南側の調査区外へ延びる。平面形は円形または楕円形と思われ、検出した規模は北東から南西185cm、北西から南東90cm、深さ57cmで、壁面は開きぎみに立ち



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK401	1	10YR3/3暗褐色	シルト	マンガン粒・黒褐色シルトブロックを多く含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	マンガン粒を多量、褐色シルトブロックを多く含む。底面に礫（φ100mm程）を含む。
SK402	1	10YR3/3暗褐色	シルト	マンガン粒を少量含み、下面に褐色シルトブロックを少量含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK402	2	10YR4/4 褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを多量、礫（φ20mm程）を少量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	一部に褐色ブロック（φ200mm程）を含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトをやや含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを少量含む。
SK405	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土粒を少量、炭化物ブロックをやや多く含む。

第268図　SK401・402・405土坑平面図・断面図

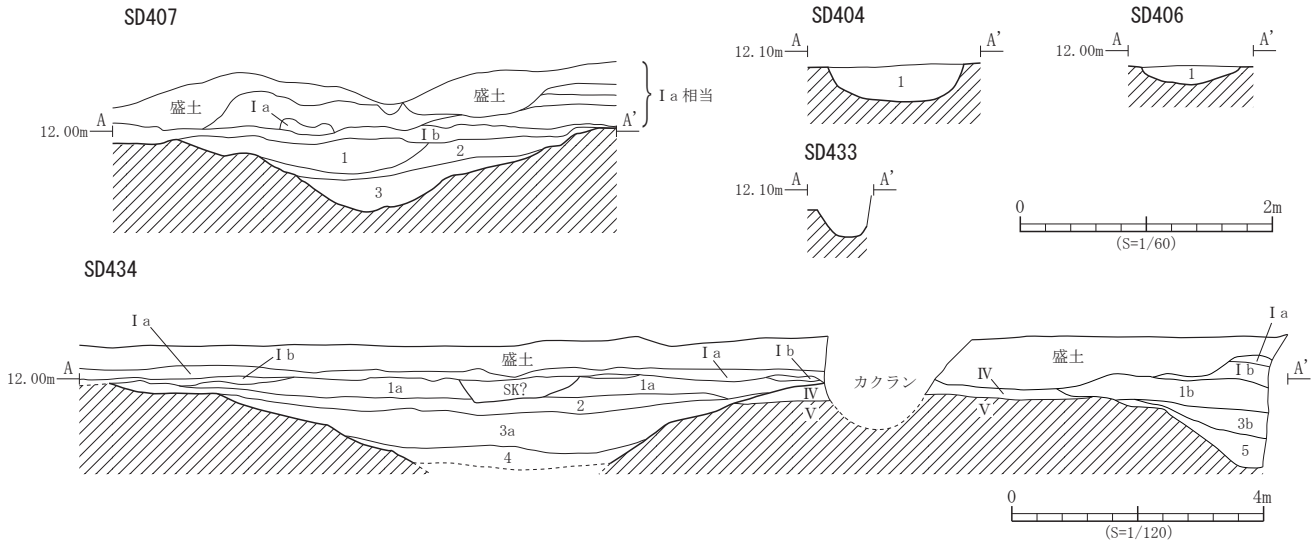
上がる。断面形はＵ字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK402土坑（第268図）　Ｗ330～340・Ｓ20グリッドで検出したが、北西側の調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形と思われ、規模は一辺195cmである。深さは70cmまで掘削したが、それ以下は掘削していない。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形と思われる。堆積土は深さ70cmまでで５層に分層される。遺物は出土していない。

SK405土坑（第268図）　Ｗ340・Ｓ30グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はＮ-88°-Ｗである。規模は長軸58cm、短軸50cm、深さ5cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面は擂鉢状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

２）溝　跡

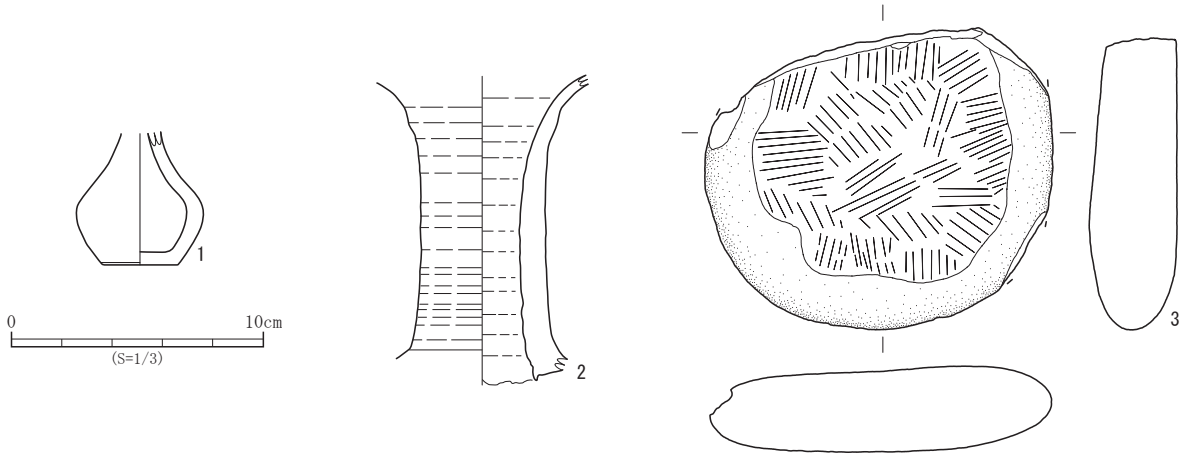
SD404溝跡（第269・271図）　Ｗ330～340・Ｓ20グリッドで検出し、Ｐ1802・1803と重複関係にあり、本遺構が



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD404	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄斑・褐色シルトブロックを少量含む。
SD406	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄斑を多量含む。下半は酸化鉄の含有量が増す。
SD407	1	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄を多量含み、下面に暗褐色シルトブロックが多く入る。
	2	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄を多量、マンガン粒を少量含む。
	3	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	下面に黒褐色砂質シルトブロックが入る。
SD434	1a	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック（φ20mm）を少量含む。グライ化している。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD434	1b	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄･マンガンを斑状に多く含む。グライ化している。
	2	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄が斑状に含まれる。グライ化している。
	3a	2.5GY3/1暗オリーブ灰色	粘土	上面に酸化鉄粒を多く含む。グライ化している。
	3b	2.5GY3/1暗オリーブ灰色	粘土	上面に褐色粘土シルトブロックを少量、酸化鉄粒を多く含む。グライ化している。
	4	5GY2/1オリーブ黒色	粘土質シルト	マンガン粒を少量含む。グライ化している。
	5	5GY3/1暗オリーブ灰色	粘土質シルト	上面の一部に褐色粘土シルトがブロック状に含まれる。グライ化している。

第269図　SD404・406・407・433・434溝跡断面図

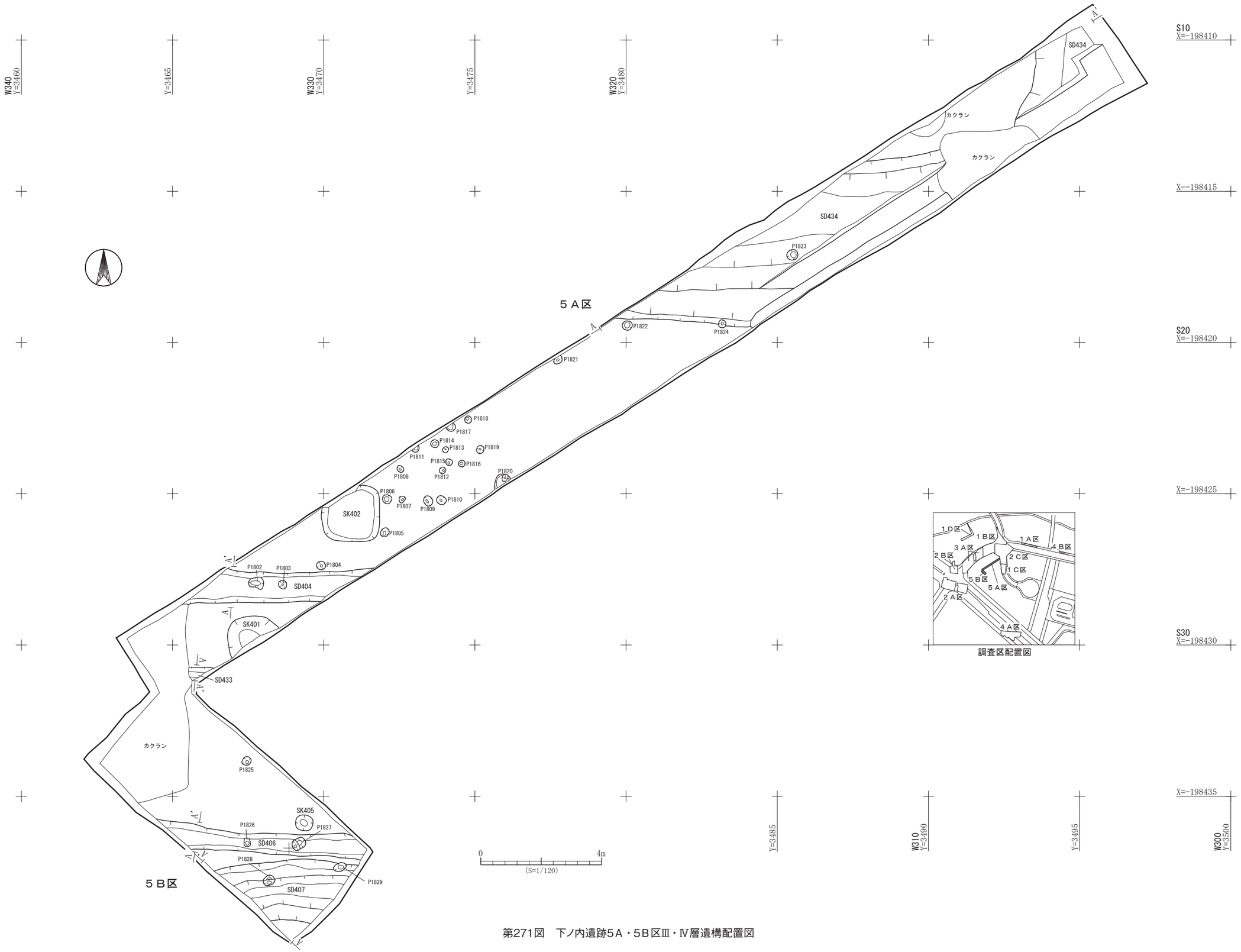


№1	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	特　徴	産　地	時　期	写真図版
1	P-97	SD434	Ⅲ・Ⅳ	土器	飯事道具壺	-×2.9×5.0	ロクロ	不明	18～19世紀前半	67-29

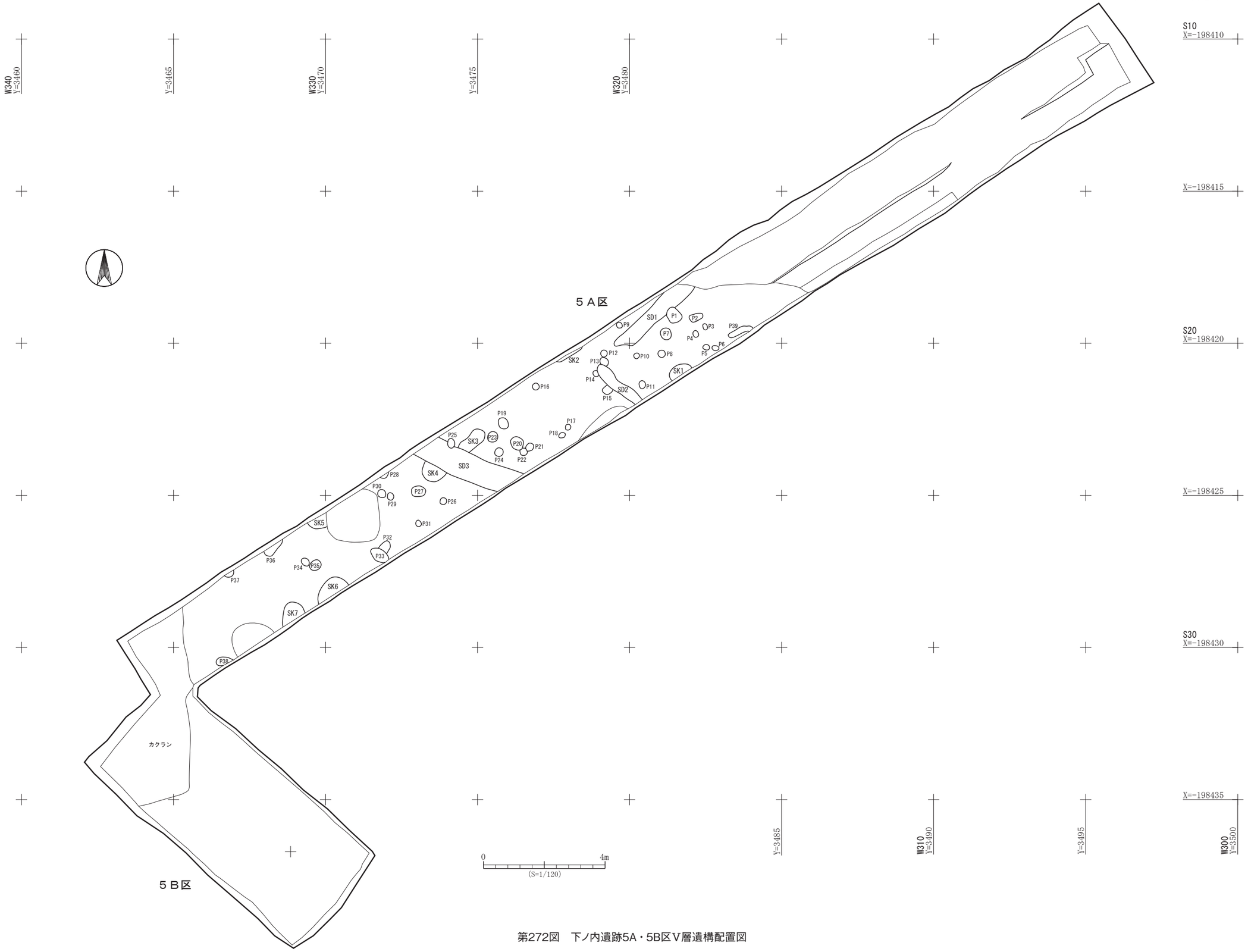
№2	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
2	E-20	SD434	Ⅴ	須恵器	長頸瓶	-×-×現10.5	ロクロナデ	ロクロナデ		67-30

№3	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ(cm)×重さ(g)	備　考	写真図版
3	Kd-a-15	SD434	-	石製品	砥石	安山岩	(12.3)×(14.4)×(3.6)　(981.0)	上部欠損。	67-31

第270図　SD434溝跡出土遺物



第271図　下ノ内遺跡5Ａ・5Ｂ区Ⅲ・Ⅳ層遺構配置図



第272図　下ノ内遺跡5A・5B区Ⅴ層遺構配置図

古い。方向は東西正方位の東西溝で、規模は長さ6.30m、幅98～115cm、深さ28cmである。断面形はＵ字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD406溝跡（第269・271図）　Ｗ330～340・Ｓ30グリッドで検出し、Ｐ1826・1827と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はＮ-86°-Ｅの東西溝で、規模は長さ7.00m、幅57～90cm、深さ６～15cmである。断面形はＵ字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD407溝跡（第269・271図）　Ｗ330～340・Ｓ30グリッドで検出し、Ｐ1828・1829と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はＮ-88°-Ｅの東西溝で、規模は長さ4.80m、幅195～210cm、深さ24～53cmである。断面形はＵ字形である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SD433溝跡（第269・271図）　Ｗ340・Ｓ30グリッドで検出した。方向はＮ-88°-Ｗの東西溝で、検出した規模は長さ0.80m、幅は不明、深さ20cmである。断面形はＵ字形である。遺物は出土していない。

SD434溝跡（第269・271図）　Ｗ310～330・N0-S0～Ｓ10グリッドで検出し、平面形はＬ字状である。方向はＮ-88°-Ｅ、Ｎ-４°-Ｅと東西方向から南北方向に屈曲するものと思われる。検出した規模は東西長10.80m、幅約4.50m、南北長2.55m、幅は不明である。深さは130cmである。東西溝は地表下約2.20mまで掘り下げた時点で、掘削を中止した。底面は確認できていないが、東西溝の堆積土は４層、南北溝は３層に分層され、１・３層は細分される。屋敷地などを区画する溝や堀跡ではないかと考えられる。遺物は、近世土製品と須恵器、石器が出土しており、第270図に図示した。１は飯事道具と思われる壺を模した土製品である。近世の遺物と思われる。２は須恵器長頸壺の頸部破片である。３は砥石の欠損品である。扁平礫の平坦面に研磨痕が観察される。

３）ピット（第271図）

28基のピット（Ｐ1802～1829）を検出した。調査区中央が若干希薄であるが、ほぼ調査区全域に分布している。遺物は土師器片が出土した。

（２）Ｖ層検出の遺構と遺物（第272図）

Ｖ層は遺構確認調査のみを行い、遺構の掘削調査は行っていない。したがって、遺構の深さは不明である。確認した遺構は土坑７基、溝跡３条、ピット38基である。なお遺構番号については確認調査としての番号を当てており、下ノ内遺跡としての通し番号とはなっていない。

１）土　坑

５Ａ-Ｖ-SK１土坑（第272図）　Ｗ320・Ｓ20グリッドで検出した。南側の調査区外へ延びる。平面形は楕円形であったと考えられる。検出した規模は北東から南西76cm、北西から南東の検出長35cm、遺物は出土していない。

５Ａ-Ｖ-SK２土坑（第272図）　Ｗ330・Ｓ20グリッドで検出した。北側の調査区外へ延び、平面形・深さは不明である。検出した規模は北東から南西98cm、北西から南東10cmである。遺物は出土していない。

５Ａ-Ｖ-SK３土坑（第272図）　Ｗ330・Ｓ20グリッドで検出した。５Ａ-Ｖ-SD３溝跡と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はＮ-50°-Ｅである。規模は長軸方向100cm、短軸45cm、遺物は出土していない。

５Ａ-Ｖ-SK４土坑（第272図）　Ｗ330・Ｓ20グリッドで検出した。５Ａ-Ｖ-SD３溝跡と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形または円形と考えられる。検出した規模は北西から南東80cm、北東から南西55cm、遺物は出土していない。

５Ａ-Ｖ-SK５土坑（第272図）　Ｗ330～340・Ｓ20グリッドで検出した。北側の調査区外へ延びており、またⅢ・Ⅳ層検出のSK402により削平されている。平面形は不明であり、検出した規模は東西65cm、南北45cm、遺物は出土していない。

５Ａ-Ｖ-SK６土坑（第272図）　Ｗ330～340・Ｓ20グリッドで検出した。南側の調査区外へ延びる。平面形は楕

円形または円形と思われる。検出した規模は北東から南西117㎝、北西から南東50㎝、遺物は出土していない。

５Ａ-Ｖ-ＳＫ７土坑（第272図）　Ｗ340・Ｓ20グリッドで検出した。南側の調査区外へ延びる。平面形は楕円形または円形と考えられる。検出した規模は南北85㎝、東西60㎝、遺物は出土していない。

２）溝　跡

５Ａ-Ｖ-ＳＤ１溝跡（第272図）　Ｗ320～330・Ｓ10～20グリッドで検出した。５Ａ-Ｖ-Ｐ１と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はＮ-48°-Ｅの北東-南西方向の溝で、検出した規模は長さ3.25ｍ、幅50～65㎝、遺物は出土していない。

５Ａ-Ｖ-ＳＤ２溝跡（第272図）　Ｗ320～330・Ｓ20グリッドで検出した。５Ａ-Ｖ-Ｐ13～15と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はＮ-50°-Ｗの北西-南東方向の溝で、検出した規模は長さ1.76ｍ、幅28～40㎝、遺物は出土していない。

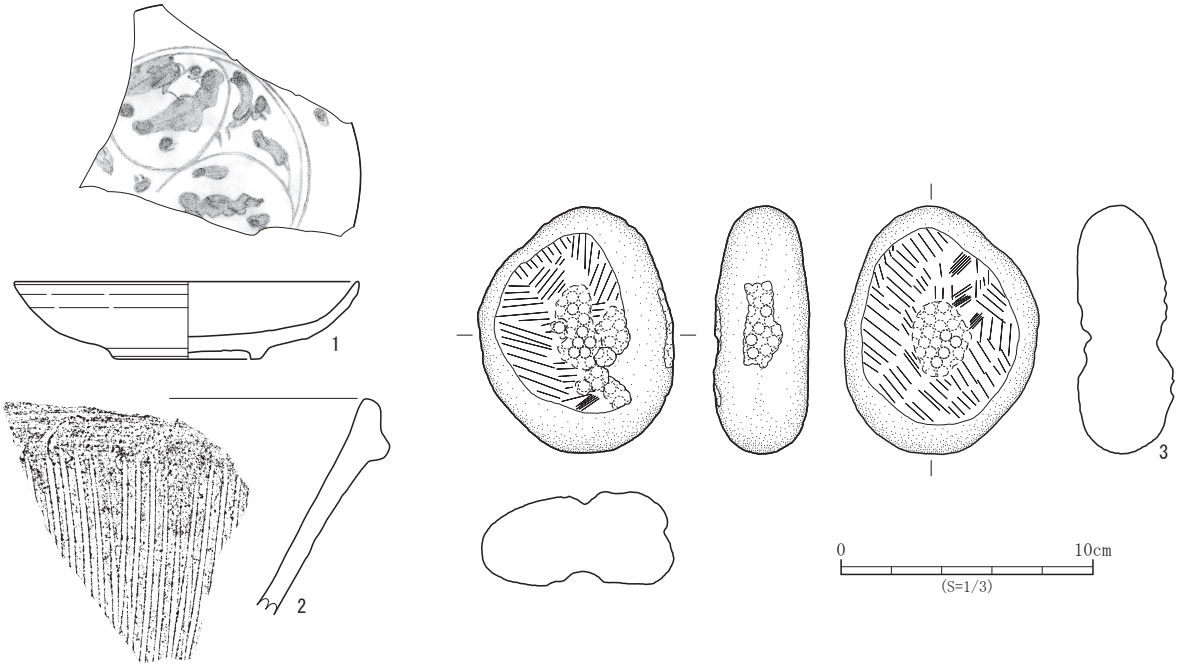
５Ａ-Ｖ-ＳＤ３溝跡（第272図）　Ｗ330・Ｓ20グリッドで検出した。５Ａ-Ｖ-ＳＫ３・４、５Ａ-Ｖ-Ｐ25と重複関係にあり、５Ａ-Ｖ-Ｐ25より古く、他の遺構より新しい。方向はＮ-66°-Ｗの北西から南東方向の溝で、検出した規模は長さ3.1ｍ、幅95㎝、遺物は出土していない。

３）ピット（第272図）

39基のピット（５Ａ-Ｖ-Ｐ１～39）を検出した。調査区中央から南西側のＷ320～340・Ｓ10～30に分布している。遺物は出土していない。

（３）遺構外出土の遺物（第273図、図版67）

近世陶磁器・須恵器・縄文土器・石器が出土し、そのうち３点を第273図に図示した。１は肥前系染付磁器で初期伊万里の皿である。SK300で出土した初期伊万里の皿と同じ手であり、同じ組であった可能性が高い。1650年代の製品である。２は鉄釉が施釉された在地産の擂鉢である。19世紀前半の製品であろう。石器はSD434から縄文時代の磨石が出土した。



No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	口径×底径×器高（cm）	特　徴	産　地	時　期	写真図版
1	J-9	-	撹乱	磁器	染付磁器皿	(13.4)×5.7×3.0	ロクロ　見込み-草花文　初期伊万里	肥前	1650年代	67-32
2	I-23	-	撹乱	施釉陶器	擂鉢	-×-×現8.7	ロクロ 鉄釉　摺目４単位	在地	19世紀前半	67-33

No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)	備　考	写真図版
3	Kc-a-30	-	SD434（東半）埋土	礫石器	磨石	安山岩	9.5×7.5×3.7　294.0	磨1+1、凹5+1、敲横1。	67-34

第273図　遺構外出土遺物

13. ま　と　め

（１）下ノ内遺跡は仙台市南部の太白区富沢四丁目にあり、自然堤防状の微高地に立地する縄文・古墳時代～古代の遺跡である。平成11年度は１Ａ区・１Ｂ区・１Ｃ区・１Ｄ区、平成12年度は２Ａ区・２Ｂ区・２Ｃ区、平成13年度は３Ａ区、平成14年度は４Ａ区・４Ｂ区、平成15年度は５Ａ区・５Ｂ区で調査が行われ、縄文時代以降の遺構群を検出した。

（２）縄文時代の遺構としては、1Ｂ区Ⅷ層－性格不明遺構１基、1Ｂ区Ⅸ層－性格不明遺構１基、１Ｂ区Ⅺ層上位・中位・Ⅻ層より竪穴住居跡１軒、掘立柱建物跡１棟、土坑43基、埋設土器５基、性格不明遺構９基、ピット58基、２Ｃ区Ⅺ・Ⅻ層より竪穴住居跡２軒、土坑47基、埋設土器５基、性格不明遺構３基、ピット６基、４Ａ区Ⅶ層から性格不明遺構3基、ピット18基、Ｘ層からは埋設土器１基が検出され、各遺構から縄文土器や土製品及び石器類が出土している。

（３）縄文時代の竪穴住居跡は３軒とも大木10式期に位置づけられる。２軒は複式炉を有しており、その内の１軒は敷石住居である。

（４）縄文時代の遺物では土器・石器・土製品がみられ、遺構の時期と重なる中期後半のものが主体を占める。また４Ａ区では後期、４Ｂ区ではわずかながら晩期の土器も出土している。

（５）弥生時代の遺物については、１Ｂ区で弥生土器の小片が出土しているが、今回の調査区では遺構は検出されていない。

（６）古墳時代～古代（10世紀以前）の遺構・遺物は各区Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅷ層より多数検している。

以下、区別に記す。

1Ａ区Ⅴ層－掘立柱建物跡１棟、溝跡１条、小溝状遺構群２群、ピット１基

1Ｂ区Ⅴ・Ⅵ層－竪穴住居跡３軒、掘立柱建物跡２棟、土坑４基、性格不明遺構１基、溝跡２条、小溝状遺構群５群、ピット145基

1Ｃ区Ⅳ層－溝跡１条、水田跡

1Ｃ区Ⅵ層－竪穴住居跡１軒、土坑３基、小溝状遺構４群、ピット９基

2Ａ区Ⅴ層－土坑４基、河川跡３条

2Ｂ区Ⅴ層－河川跡１条

2Ｃ区Ⅴ層－竪穴住居跡３軒、溝跡２条、小溝状遺構群１群、ピット20基

2Ｃ区Ⅵ層－竪穴住居跡１軒、土坑４基、性格不明遺構13基、溝跡１条、小溝状遺構群３群、ピット47基

3Ａ区Ⅴ層－土坑１基、性格不明遺構１基、小溝状遺構群２群、ピット104基

4Ａ区Ⅴ層－竪穴住居跡１軒、ピット１基

4Ａ区Ⅶ層－河川跡１条、性格不明遺構２基、埋設土器１基、ピット18基

4Ｂ区Ⅴ層－竪穴住居跡１軒、ピット４基

5Ａ・5Ｂ区Ⅲ・Ⅳ層－土坑３基、溝跡４条、ピット28基

5Ａ・5Ｂ区Ⅴ層－土坑５基、溝跡４条、ピット38基

（７）Ⅴ層検出の平安時代以前（10世紀以前）の遺構と考えられる小溝状遺構群は、４Ａ・５Ａ・5Ｂ区を除く調査区から検出されており、本遺跡内に畑が広がっていたものと考えられる。

（８）Ⅲ層検出の平安時代（10世紀以降）以降の遺構は、各区より多数検出している。以下、区別に記す。

1Ｂ区－掘立柱建物跡１棟、井戸跡１基、土坑24基、河川跡１条、性格不明遺構２基、ピット列１条、溝跡12条、ピット664基

1Ｃ区－土坑２基、溝跡１条

1D区－井戸跡１基、土坑１基、性格不明遺構１基、溝跡１条

2C区－掘立柱建物跡５棟、土坑28基、性格不明遺構１基、溝跡17条、ピット229基

3A区－竪穴住居跡１軒、土坑39基、性格不明遺構２基、溝跡14条、ピット938基

4A区－竪穴住居跡４軒、土坑６基、河川跡１条、溝跡２条、ピット21基

5A区－土坑３基、溝跡４条、ピット28基

（９）縄文時代の出土遺物について

縄文時代の遺物は1B区、2C区、4A区において遺構及び遺物包含層中から多量の土器・石器・土製品などが出土した。ここでは、これらの遺構や遺物包含層中から出土した遺物を中心にみていきたい。

１）縄文土器

1B区、2C区、4A区の３地点で出土した縄文土器について文様・施文により分類を行い、各土器型式ごとに分類して説明する。地点ごとでみると1B区と2C区は中期中葉から末葉を主体とする内容であるが、4A区は後期中葉を主体としている。

第Ⅰ群土器（第274図１）

本群に属する土器は1B区で出土した深鉢１点のみである。口縁部から胴部上半部が残存し、胴部はほぼ垂直に立ち上がり、頸部から口縁部にかけて外傾して口唇部は内側に肥厚して屈折する。口縁部は平縁で４単位の突起を有し「Y」字状･横位「S」字状の隆線文が貼付される。それらに連結する波状の隆線文上にはL縄文が押圧される。口縁部は横位の刻目を有する隆線文及び沈線文で区画され、沈線文による山形文が連結して鋸歯状となるが、一部で波状となる。胴部には綾絡文が施文される。この土器に類似する資料は山田上ノ台遺跡第Ⅶ群土器に認められることから大木7a式と考えられるが、口縁部の押圧縄文などを考慮するとやや新しい段階の可能性もある。

第Ⅱ群土器（第274図２～13）

1B･2C区で出土した。キャリパー形の深鉢で頸部に無文帯を有する。２･４･６･７の口縁部はいずれも平縁で、口縁部文様帯は渦巻隆沈線文が縦横に連結して区画される。区画内には縄文施文のほか、押圧縄文（７）もみられる。頸部直下は沈線文または隆沈線文が巡り、胴部には沈線文（２）、隆沈線文（５）で渦巻文等が描かれる。３は口縁部に中空の渦巻突起が付く。５の口縁部破片は渦巻文が隆沈線文で表現され、頸部から口縁部が外反する器形と考えられる。中期中葉の大木8b式と考えられる。

第Ⅲ群土器（第275～277図）

本群の土器は1B・2C区から多量に出土し、全体の遺物の大半を占める。口縁部は平縁と波状口縁がある。平縁のものは小突起を有するもの（第275図７）や、貫通孔を有して把手状となるもの（第275図６）などがある。波状口縁波頂部に双輪状の突起を有し、波底部に山形の小突起を有するもの（第276図５）。器形では胴部上半に膨らみをもち、括れを有して立ち上がるもの（第275図１）、底部から開いて直線的に立ち上がるもの（第275図８）、胴部中位に最大径をもち、頸部で大きく括れて口縁部が外反するもの（第275図９）、底部から開いて立ち上がり、口縁部付近で「く」の字状に強く内側に屈折するもの（第276図11）などがある。文様は２本の平行する沈線文または隆沈線文により無文帯が形成され、「O」字･「S」字･「クランク」状文などが横位に連結して展開していく。隆線の一部は立体的な鰭状となる部分もみられる（第275図９）。第276図13は鰭状の隆線文に刻目を有しており、新しい要素としてとらえられるが、文様構成がその他のものと類似するため本群中に含めた。区画内には縄文、撚糸文が充填されるが、「O」字状文、または玉抱き状の区画内には刺突文が充填されるものもある（第275図２･６、第276図11）。文様は胴部上半に展開するものが多いが、無文帯が胴部下半に垂下するものもある（第275図９）。第277図１～10は本群の粗製土器である。胴部中位に最大径を持ち、口縁部に向かって緩やかに内湾して立ち上がり、口縁部直下に一条の沈線あるいは隆線文が巡るものがある。第277図11の小型土器は波状口縁で、頸部には押圧縄

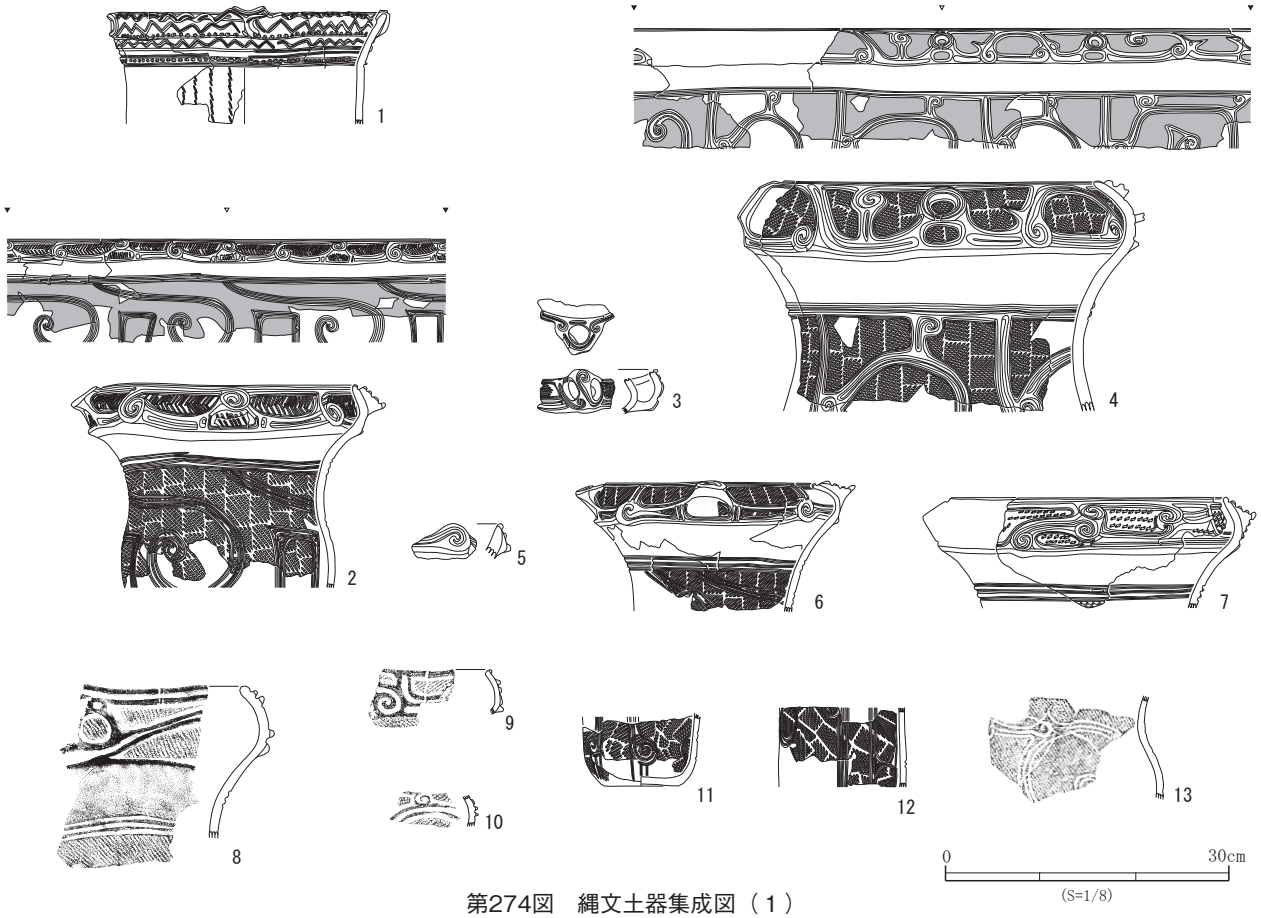
文が施文される。第277図14は台付の小型土器で、台部には貫通孔を有する。第277図15は小さな山形突起による小波状口縁となる。第277図16～23は注口土器である。16は胴部中位よりもやや上に隆線文が貼付され、算盤玉状の器形を有し、口唇部から延びる把手は注口部に連結して環状となる。17は胴部に丸みを持ち、頸部から口縁部にかけては外側に「く」の字状に開いて立ち上がる。底部には柱状の小さな台が付く。18～22の注口部も環状の把手を有している。第277図23は壺で頸部が強く屈折し、口縁部には橋状の把手が付く。いずれも中期末葉の大木10式と考えられる。

第Ⅳ群土器（第278図）

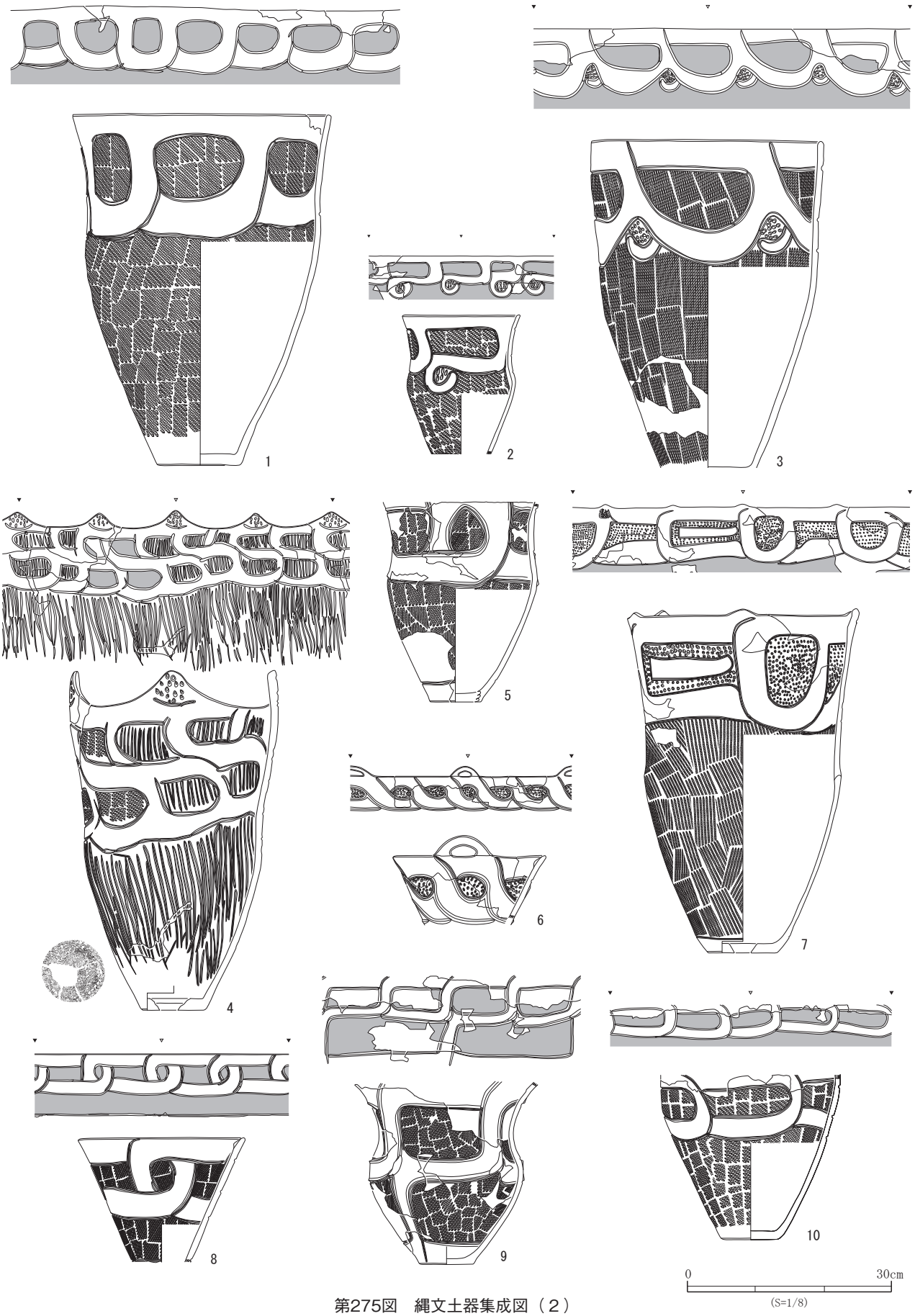
1Ｂ・2Ｃ区から出土しているが、破片のものを含めても数は少ない。１～３はいずれも平縁の深鉢で、隆線文で方形に区画され、２では胴部中位まで垂下する「Ｓ」字状文がみられる。１は口縁部から胴部、２・３は胴部へ横位に連続した鱗状の刺突文が施される。４は小型の深鉢で平行する２条または３条の沈線で文様が描かれる。５は深鉢の口縁部に付く把手状の突起である。９・11は平行沈線で文様が描かれるが、第Ⅲ群土器のものに比べて沈線間の無文帯の幅が狭くなる。12～15は同一個体の深鉢で、隆線部分に円形浮文がともなう。10の胴部破片は隆線上に隆線に平行した方向に長い刺突文がみられる。16～17は地文に櫛歯状の沈線文が施文される。第278図18は波状口縁となる小型の浅鉢で、内外面には赤彩がみられた。本群の土器は後期初頭から前葉頃と考えられる。

第Ⅴ群土器（第278図）

4Ａ区からまとまって出土しており、1Ｂ・2Ｃ区からは破片のみが検出されている。19は口縁部付近がわずかに内湾する深鉢で、口縁部直下にはやや幅広の帯縄文がめぐる。20～24は幅狭の平行沈線で文様が構成される。25の壺は平行する３つの帯縄文が無文帯と交互に配される。26は浅鉢である。口縁部に４条の平行沈線が巡り、わずかに位置を変えて刻まれる短縦位沈線によって、文様はクランク状となっている。27～38は粗製土器及び鉢類で

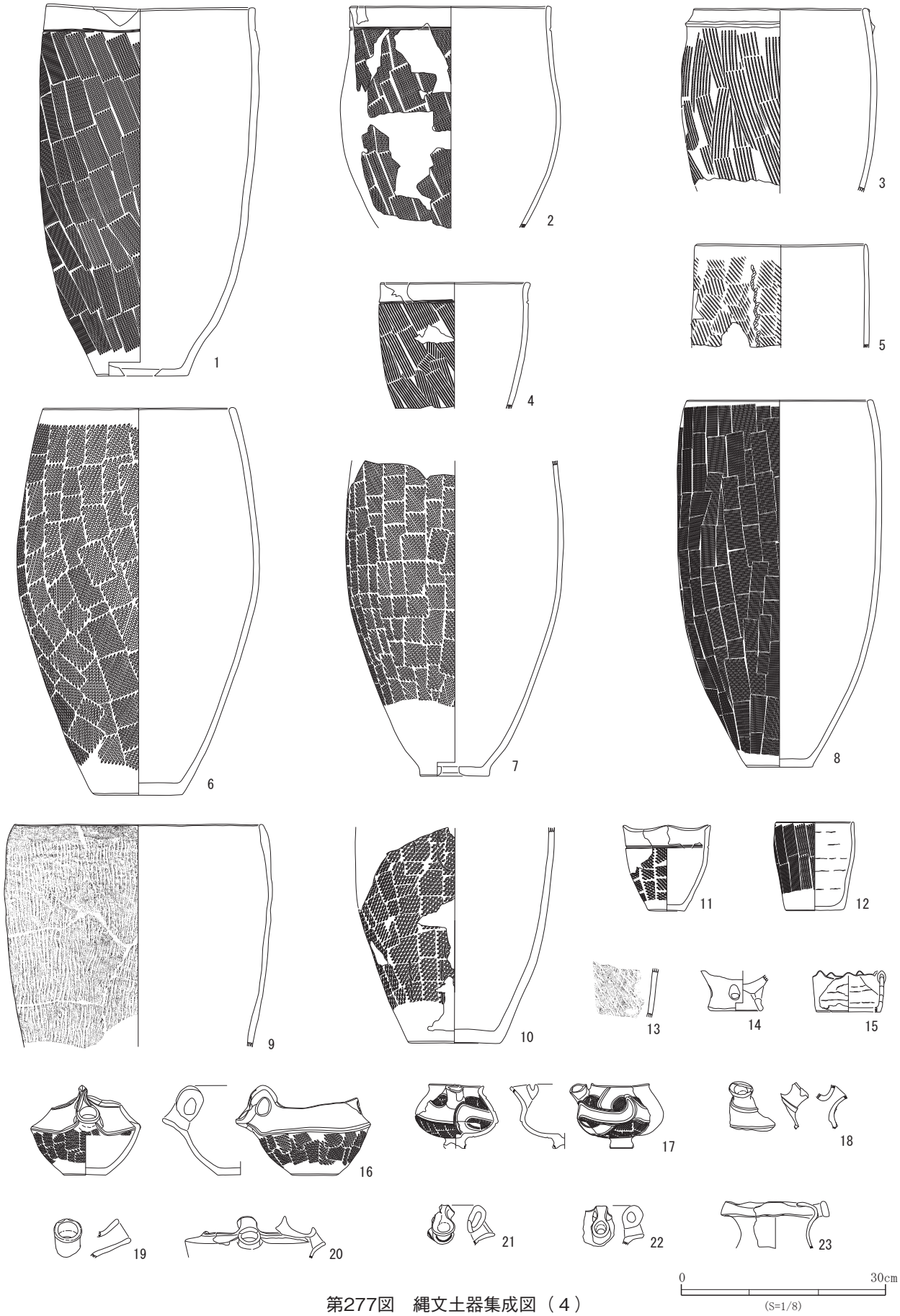


第274図　縄文土器集成図（１）

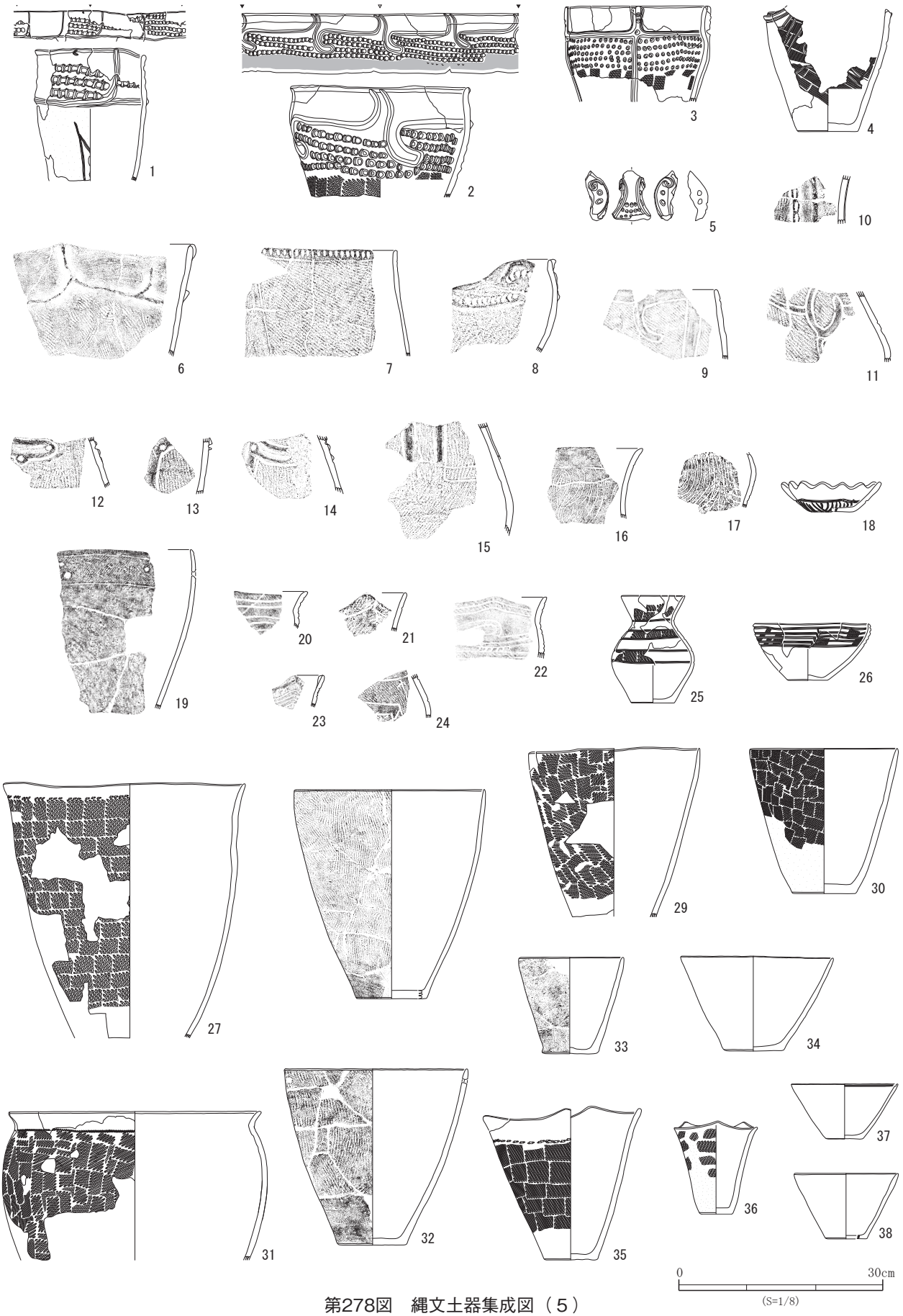


第275図　縄文土器集成図（２）

第276図　縄文土器集成図（３）



第277図　縄文土器集成図（４）



第278図　縄文土器集成図（５）

ある。胴部が締まり口縁部が緩やかに外反しながら開いていく器形が多い。31は口縁部が「く」の字に屈折する。35、36は波状口縁となり、口縁部付近は緩やかに外側に開いて立ち上がる。20・22は後期前葉の南境式の新しい段階、それ以外の土器については後期中葉の宝ケ峯式と考えられる。

２）石　器

① 縄文時代中期末葉の石器について

石器・石製品について第４表に石器組成表、第５・６表に器種別石器石材組成表を作成した。古代の石製品を含む石器総点数は1,202点である。地区別では縄文時代の遺構が分布する1Ｂ区と2Ｃ区のⅫ層にまとまった出土点数が認められ、1Ｂ区に298点、2Ｃ区は780点が出土した。この両地区の石器群は縄文時代中期末葉の土器に伴って出土しており、当該時期に属する石器群として捉えられる。また、4Ａ区では中期末葉（Ⅷ～Ⅹ層）の石器11点の他に後期（Ⅵ～Ⅷ層）の石器52点が確認され、合わせて63点の石器が出土している。

器種別の分類は打製石器、磨製石器、礫石器、石製品、その他に大別し、それぞれの器種に分類した。打製石器の内訳は、石鏃35点、石錐13点、石匙12点、不定形石器112点、石篦７点、楔形石器３点、二次加工のある剥片124点、微細剥離痕のある剥片97点、剥片430点、石核35点であり、打製石器全体としては868点出土した。磨製石器としては磨製石斧が2Ｃ区に４点出土した。礫石器については最終的な使用痕による器種分類を行い、磨石69点、凹石84点、敲石45点、砥石24点、石錘16点、石皿12点、台石４点、礫器４点であり、礫石器全体としては258点である。石製品は縄文時代に属するものは石棒１点であり、他は古代以降の砥石30点、石製模造品５点、石臼18点の計55点である。その他は原石や不明石器等が18点である。

縄文時代中期末葉の石器群がまとまって出土した1Ｂ区と2Ｃ区の器種別の石器組成については、第280図２・４に２軒の住居跡の石器組成とともにグラフで示した。このグラフは２が打製石器の内の定形的な石器の割合いを示し、４は礫石器の割合いを示したものである。グラフで見ると打製石器では不定形石器が６割前後を占める。礫石器については磨石と凹石を合わせて６割前後を占めるという傾向が認められる。一方で第280図３・５は4Ａ区Ⅵ～Ⅷ層の縄文時代後期の石器組成を示したグラフである。

器種別の石器石材については、表と共に石器の地区別と大別毎の組成を第281図にグラフで示した。これによると、打製石器に珪質頁岩が多く認められ、礫石器では安山岩が主体を成すという特徴がある。このような傾向は当該地域の縄文時代遺跡で一般的に認められる傾向である。

全体的には以上のような特徴が認められた。以下に各器種別の特徴について簡単に触れることとする。

第282～284図は今回の調査で主体となって出土した縄文時代中期末葉の土器群に伴って検出された石器群から、主な打製石器を抽出して図示したものである。

打製石器

石　鏃（第282図１～23）

石鏃は基部の形状によって細分し、有茎石鏃が２点、平基鏃が６点、凹基鏃が21点、その他の基部形状を持つものや欠損品を含むその他が６点の計35点である。中期に属する石鏃は1Ｂ区に９点、2Ｃ区に24点の33点が確認され、23点を図示した。

形態は基部の形状により４類に分類でき、a1類が有茎石鏃（１・２）、a2類は平基鏃（３～５）、a3類は凹基鏃（６～22）、a4類はその他の石鏃で、23の円基鏃が含まれる。a1類の有茎石鏃は、１の石鏃が側縁の先端部側に突起を持つ形状で、１・２とも基本土層第Ⅴ層のグリッド出土であることから、縄文時代後期以降の遺物である可能性もある。

a2類の平基鏃は３・４は調整加工のやや粗い部分も認められる。５は未製品でSX99性格不明遺構から出土したもので、詳細については399頁で述べる。

a3類の凹基鏃は本遺跡出土の石鏃の中で主体となる。基部の抉り出しの深さには浅いものから深いものまで認められ、側縁の形状でも細分が可能である。６～14は側縁の形状が直線状に基部へ向かって広がるもので、平面の形状が二等辺三角形のものである。14は長幅比が逆の小形石鏃である。15～21は側縁が脚部付近で湾曲する形状を呈する。また、18は脚部が逆三角形を呈する。22は側縁が緩やかに外反する石鏃である。

a4類に含めた23の円基鏃も裏面に大きく自然面を残すものである。

石材については、珪質頁岩を用いているものが最も多く、21点で全体の６割近くを占める。その他の石材は玉髄が６点、石英は３点、鉄石英は３点、頁岩と凝灰岩と黒曜石が１点ずつ確認された。また、分類別に見た石材の傾向としても本遺跡で主体となる凹基鏃では珪質頁岩が多く用いられているが、有茎石鏃は玉随と頁岩を用いている。

石鏃の先端部の残存状況は、使用による明瞭な衝撃剥離痕等は認められない。

大きさと重さについては、完形値では長さが1.5～4.2㎝、幅は1.2～2.6㎝、重さ0.3～4.4ｇを測り、平均すると長さ2.4㎝、幅1.5㎝、重さ1.3ｇとなる。

石　錐（第282図24～28）

石錐はつまみを持つものが13点である。その内の５点を図示した。地区別では1Ｂ区で３点、２Ｃ区から10点が出土した。

形態分類は、c1類とした全体が棒状を呈する石錐は無く、いずれもc2類としたつまみを持つ石錐である。錐部と素材の位置関係については打面側を錐部としているもの（24・25・27）と端部側を錐部としているもの（26・28）がある。28は錐部とつまみ部との明瞭な境が認められないが、下端の錐部作出のための二次加工が施されなくなる胴部から上部をつまみ部と考えた。

石材は13点中の８点が珪質頁岩であり、過半数を占める。その他の石材としては玉髄が３点、凝灰岩が各２点認められた。

石　篦（第282図29～35）

石篦は半両面加工が２点、両面加工が５点の計７点である。全点を図示した。地区別では2Ｃ区で６点、４Ａ区から１点出土した。

形態分類は、f1とした半両面加工が２点（34・35）、f2とした両面加工が５点（29～33）である。31～33は部分的に素材面を残すが、素材面が小さく横断面形に大きな影響を与えていないことから両面加工品に含めた。

平面の形状は、29～31が短冊状を呈するものであり、下端に片刃に近い刃部を持つものとしてまとめられるが、29は薄手で細長い形状を持つものであり、明瞭な先端部は認められないが尖頭器としての分類の可能性も含めて他の石篦とはやや異なるものである。32～35は下端刃縁が丸く、その直上に最大幅があり、上端に向けて収束する形状を呈するものであり、刃部の形状は32が両刃、33～35は片刃である。

石材は全て珪質頁岩である。

石　匙（第283図１～11）

石匙は刃部の形状が縦型のものが７点、横型が２点、刃部が斜行する中間形や特殊な形態を含むその他が３点の計12点である。地区別では1Ｂ区で４点、２Ｃ区で７点である。

形態分類は、つまみ部を上にした場合縦型になるものをd1類、横型となるものをd2類、その他をd3類とし、d1類が７点、d2類は１点、d3類は３点である。素材の位置関係については端部側をつまみ部としているもの（１・４・６・９）と打面側をつまみ部としているもの（２・３・５・７・８・10）の双方が認められる。

１～７は縦型である。１は表面の全面に調整加工が施され、器体の端部にも刃部が作出されるものである。３～６は側縁から端部にまで刃部の作出が行われている。

８は横型の石匙としたが、刃部の形状が三角形を呈するものであり、主な刃部と考えられる下面の刃部と共に、

両側縁にも直線的な二次加工が施されている。

９・10は刃部が斜行して縦型と横型との中間形を呈することからその他とした。11は調整加工は器体の表裏に細かく施されて端部は尖頭状を呈する。全体的な形状が通常の石匙とは異なる、別な器種の可能性もあるが、つまみ形状を重視し、その他とした。

石材は全て珪質頁岩である。

不定形石器（第284図１～17）

不定形石器は刃部の部位及び形状によって細分され、石器の側縁に鋭角の刃部を持つ削器が47点、石器の端部に鈍角の刃部を持つ掻器が３点、抉り入り状の刃部を持つノッチが４点、石器の一部に刃部加工が認められるRFが33点、石器の刃部に使用痕が認められるＵＦが25点の計112点である。地区別では１Ｂ区で30点、２Ｃ区で71点、４Ａ区で２点である。17点を図示した。

形態分類としては７類に細分した。ｅ1類は基本的に素材となった剥片の側縁に連続した二次加工を施して刃部を作出したものであり、所謂削器である。素材の端部に刃部が作出されるものであっても刃部角が鋭角なものは本類に含めた。本類は42点が出土し、第284図１～16に示した。本石器の主体を成すものである。ｅ2類は素材となった剥片の端部に急角度の二次加工を施して凸刃の刃部を作出するものであり、所謂掻器である。本類は３点出土したのみで、17に示した。ｅ6類は素材となった剥片の一部に刃部加工が認められるもので、ＲＦとして二次加工のある剥片とは分離した石器である。30点出土した。ｅ7類は素材となった剥片の一部に使用痕と考えられる刃こぼれ状の微小剥離が認められるもので、ＵＦとして微細剥離痕のある剥片と分離した石器である。24点出土した。ｅ3類からｅ5類に属する不定形石器は今回の調査では出土していない。

１～16はe1類の削器の内、素材と形状に特徴が認められるものを示した。１～９は縦長剥片を素材とし、両側縁に二次加工を施して刃部を作出しているものであるが、下端部の形状が尖頭状を呈するものである。いずれも先端部の作り出しを意識したような加工であり、下ノ内遺跡の前回報告（仙台市教育委員会　1990）でも不定形石器１B-1類として８点出土している。また、２～14は細身の縦長剥片を素材とするものであり、次頁に述べる縦長剥片を素材とした削器と考えられるものであり、本類に比較的まとまって用いられている状況が認められる。

17は厚手の剥片を素材とし、平面の形状は細長い。主要な刃部は下端であり、ｅ2類の所謂典型的な掻器である。

石材は99点が珪質頁岩であり、９割以上を占めている。

磨製石器

磨製石斧

２Ｃ区に４点出土した。完形品と刃部破片、頭部破片、部分破片である。研磨はいずれも丁寧に施されており、石材は凝灰岩である。

礫石器

礫石器は241点が出土し、地区別では１Ａ区に３点、１Ｂ区に69点、１Ｃ区に１点、２Ｃ区に156点、３Ａ区に３点、４Ａ区に７点、４Ｂ区に１点、５Ａ区に１点である。

分類基準は最終的な使用痕により、磨石・凹石・敲石としている。点数は磨石が69点（28％）で、この内磨面だけを持つものが36点、磨＋凹が16点、磨＋敲が14点、磨＋凹＋敲が２点である。凹石は84点（33％）で、この内凹みだけのものが66点、凹＋磨が８点、凹＋敲が６点、凹＋磨＋敲は認められない。敲石は45点（19％）で、この内敲きだけのものが32点、敲＋磨が４点、敲＋凹が９点、敲＋磨＋凹は認められない。

その他の礫石器は、砥石が24点（10％）、石錘は４点出土している。石皿は12点（５％）で、皿状の窪みを持つもの、扁平石皿、４Ａ区のＸ層からは脚付の石皿が出土した。台石は16点（２％）、礫器も４点（２％）であった。

石材は安山岩が195点で、全体の81％を占めて主要な石材となる。その他の石材としては流紋岩14点、デイサイ

ト11点、閃緑岩３点、砂岩５点、凝灰岩が９点、頁岩が３点である。

② １Ｂ区SX99出土の石器について

１Ｂ区のSX99とした遺構からは計29点の剥片石器が20×15㎝の範囲でまとまって検出された。定形石器としては石鏃が１点と削器が１点確認されただけであり、その他は石核１点、使用痕のある剥片２点、微細剥離痕のある剥片16点であった。これらの一括遺物はいずれも良質の珪質頁岩を素材としており、少なくとも４個の母岩に細分され、その内の２母岩に接合関係が認められた。接合資料１は器体の上面に設定された剥離面を打面として、打点を左方向に移動しながら連続した剥片剥離があり、作出された剥片は器長が短い縦長の剥片である。接合資料２は背面に残された剥離面の方向も含めて多方向からの剥離が認められることから、一定の打面を持たずに頻繁に打面転移を繰り返しながら剥片剥離が施されているものであり、作出された剥片は横長の剥片であった。

本遺構の性格としては、石器あるいはその素材をその場所に一括して保管したものと考えられる。

③ 石刃状の縦長剥片について

下ノ内遺跡の縄文時代の石器には、所謂縄文石刃とも呼ばれる石刃状の縦長剥片を素材とした石器がある。点数としては35点であり、その器種別の組成を第７表に示し、さらにその分布を遺構とグリッドで第285図に示した。器種別の内訳は石錐１点、石匙３点、不定形石器23点、二次加工のある剥片１点、微細剥離痕のある剥片５点、剥片２点であり、石器の組成としては不定形石器e1類の削器を中心とした素材の側縁に加工を施した石器が多い。

分布状態では、遺構からの出土が認められたものは２軒の竪穴住居跡と１基の土坑だけであり、その他の遺構からは出土していない。土坑はSK105土坑から出土した微細剥離痕のある剥片１点であり、まとまった出土点数ではない。一方、竪穴住居跡ではSI223竪穴住居跡から７点、SI227竪穴住居跡から６点が出土した。器種別の内訳はSI223は石匙２点、不定形石器の削器１点、RF２点、UF１点、微細剥離痕のある剥片１点であり、SI227は石匙１点、不定形石器の削器２点、UF３点である。遺構外の分布状態は、集中するような状況はない。

以上の状況から見ると、このような石刃状の縦長剥片や縦長剥片を素材とした石器群は、分布が散漫であること、逆に住居跡内にややまとまった点数が認められたこと、石核も認められず、剥片剥離作業を行った状況も認められないことなどの点から、石器やその素材として遺跡外から持ち込まれた可能性が高い。

縄文時代中期末の時期にこのような石刃状の縦長剥片が検出されている遺跡の分布範囲は、近年山形県内陸部を中心に宮城県・福島県・新潟県北部にわたって分布していることが明らかとなってきており、山形県の柴橋遺跡からは住居跡内からの接合資料も発見されている（寒河江市教育委員会　1987）。また、素材となった珪質頁岩も最上川・月布川・寒河江川水系を原産地としている可能性も指摘され、石器及び石材の広範囲の移動に伴う搬入・搬出が行われていたことが理解されつつある（石井　1996）。

このような中で、隣接する山形県の遺跡としては、月布川の流域に位置する橋上遺跡（大江町教育委員会　1985）があげられる。ここでは本遺跡と同様に縄文時代中期末の大木10式の土器と共に8,000点以上の石器が出土している。橋上遺跡からは縦長剥片剥離技術を持つ石核と石刃状の縦長剥片も大量に出土しており、一大生産地とも言える遺跡である。このような遺跡の存在からは、今後の産地同定等の裏付けが必要となるが、橋上遺跡のような生産地を核として近隣の各遺跡へ素材あるいは定形石器として運び込まれたものとも考えられ、その一つの現象が本遺跡のような石刃状剥片素材の石器群の分布状態として現れたものと推測することも可能である。

第4表　下ノ内遺跡石器組成表

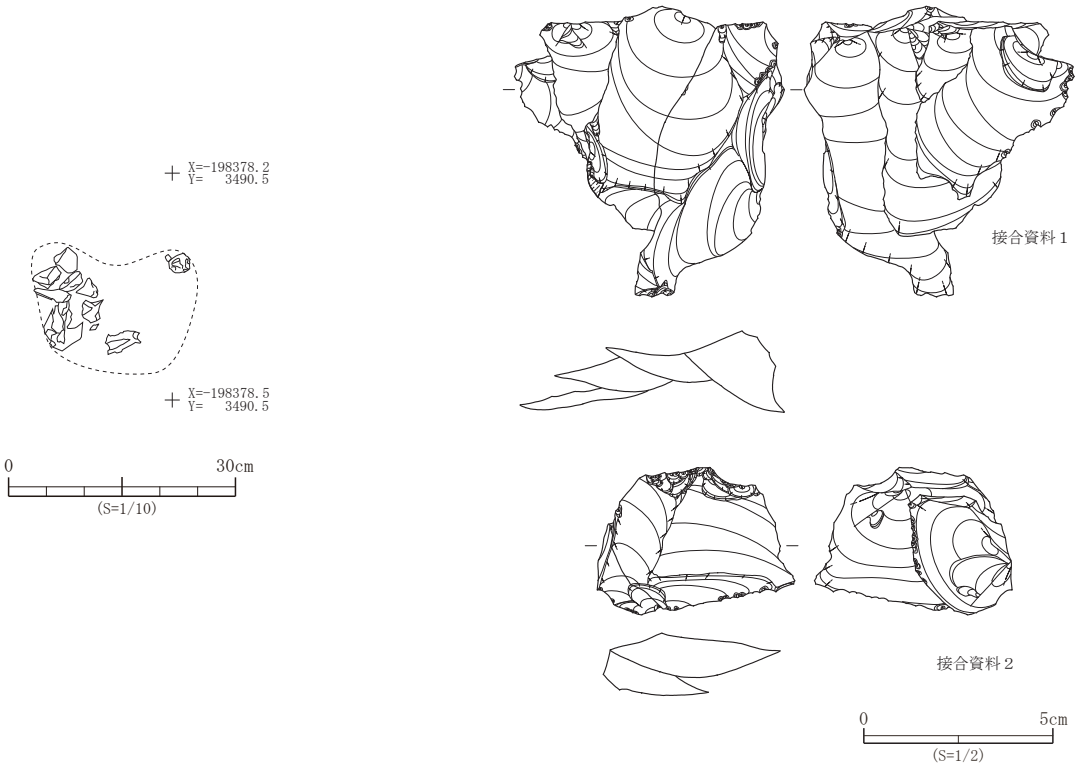
		打製石器 Ka																				磨製石器 Kb	礫石器 Kc								石製品 Kd				その他 Ke	計	
		石鏃				石錐	石匙			不定形石器					石篦		楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	石核	磨製石斧	磨石	凹石	敲石	砥石	石錘	石皿	台石	礫器	砥石（古）	石棒	石製模造品	石臼			
地区	層位・遺構	有茎 a1	平基 a2	凹基 a3	その他 a4	つまみ付き c2	縦型 d1	横型 d2	その他 d3	削器 e1	掻器 e2	ノッチ e4	RF e6	UF e7	半両面加工 f1	両面加工 f2	h	j	k	l	m	a	a	b	c	d	e	f	g	h	a	b	e	g			層位・遺構
1A	Ⅲ～Ⅵ																1	1	1	5				3												11	Ⅲ～Ⅵ
1B	Ⅷ SX59																			1																1	SX59
	Ⅺ上 SI100																	1					1												2	SI100
	Ⅺ上 SX67埋設																	1																	1	SX67埋設
	SX66配石																						1	1											2	SX66配石
	Ⅺ中 SX99		1							1				2					16	8	1														29	SX99
	Ⅺ中 SK84																												1						1	SK84
	Ⅺ中 SK97									1								1		3						1									6	SK97
	SB139																						1												1	SB139
	SK74																						1												1	SK74
	SK85																	1			1														2	SK85
	SK92					1														1															2	SK92
	SK95			2														3		4															9	SK95
	SK104																								1							1			2	SK104
	Ⅻ SK105									1									3																4	SK105
	Ⅻ SK107																		2	1															3	SK107
	Ⅻ SK108																		1																1	SK108
	Ⅻ SK113																			1															1	SK113
	Ⅻ SK117																			2															2	SK117
	Ⅻ SK143																			1															1	SK143
	Ⅻ P2602																1																		1	P2602
	Ⅸ			2						3			7	1				3	3	10	2		6	5	2	2	1	1							41	Ⅸ
	Ⅺ			2		1	1		2	4	1		7	4				9	8	36	5		7	12	8	5		1		1					2	116	Ⅺ
	その他の層	1			1	1		1		3		1	1					8	5	17			3	2	4			1			8		4	4	4	69	その他の層
小計		1	1	6	1	3	1	1	2	13	1	1	8	7			1	27	38	85	9		20	20	15	8	1	3	1	1	8	1	4	4	6	298	小計
1C	Ⅶ																							1												1	Ⅶ
1D	Ⅳ																			1																1	Ⅳ
2C	Ⅺ SX220																								1											1	SX220
	Ⅺ SX225																											1								1	SX225
	Ⅻ SI223		1				2			3			3	4				7	5	12	2		4	4		4		1								52	SI223
	Ⅻ SI227		1	1	2	2	1			6			5	5	1	1		9	16	17	3		16	13	4	4		3	1							111	SI227
	Ⅻ SK229																						1	1												2	SK229
	Ⅻ SK230																		1	1																2	SK230
	Ⅻ SK233																	1		2																3	SK233
	Ⅻ SK237													1				2	3	10			1	1												18	SK237
	Ⅻ SK248																			1																1	SK248
	Ⅻ SK250														1																					1	SK250
	Ⅻ SK251																									1										1	SK251
	Ⅻ SK252			1												1				4				1												7	SK252
	Ⅻ SK253																	1		1																2	SK253
	Ⅻ SK255																			8								1								9	SK255
	Ⅻ SK260																	1	1		1															3	SK260
	Ⅻ SK269																	1		2																3	SK269
	Ⅻ SK271																			2																2	SK271
	Ⅻ SK275																	1	1	7	1			1												11	SK275
	Ⅻ SK276																			2																2	SK276
	Ⅻ SK279																			1																1	SK279
	Ⅻ SK280																		1	3																4	SK280
	Ⅻ SK290																	1																		1	SK290
	Ⅻ SK291																			5																5	SK291
	Ⅻ SK293								1																											1	SK293
	Ⅻ SK294																	1		1																2	SK294
	Ⅻ P222																						1													1	P222
	Ⅻ P240																			1																1	P240
	Ⅻ P244																			1																1	P244
	Ⅻ P249																							1												1	P249
	Ⅻ P278																			6																6	P278
	Ⅻ P288																	1		1																2	P288
	Ⅻ P289									1																										1	P289
	Ⅸ					1	1			3		1	1			1		7	2	24	1	1	3	7	5	2			1							61	Ⅸ
	Ⅸ・Ⅹ		1	1		2												2	1	3	1		1													12	Ⅸ・Ⅹ
	Ⅺ		1	11	3	5	2			14	1	1	10	6		1	1	50	24	189	14	2	13	21	17	3		2	1	3					2	397	Ⅺ
	Ⅻ																									2										2	Ⅻ
	その他の層	1									1	1	3	1				1	1	8		1	2	4	2		1				9		1	11	1	49	その他の層
小計		1	4	14	5	10	6		1	27	2	3	22	17	2	4	1	86	56	312	23	4	42	54	29	16	1	8	3	3	9		1	11	3	780	小計
3A	Ⅲ																				1		2		1						9			3	4	20	Ⅲ
4A	Ⅶ SX394							1																												1	SX394
	Ⅵ～Ⅷ		1	1						5			3					4	2	16	2		1	4			12									51	Ⅵ～Ⅷ
	Ⅷ～Ⅹ									2						1		1		3			1	1				1							1	11	Ⅷ～Ⅹ
	その他の層													1				5		8			1	1			2				3					4	25	その他の層
小計			1	1				1		7			3	1		1		10	2	27	2		3	6			14	1			3				5	88	小計
4B	Ⅴ																						1													1	Ⅴ
5A	Ⅲ・Ⅳ																						1								1					2	大溝
合計		2	6	21	6	13	7	2	3	47	3	4	33	25	2	5	3	124	97	430	35	4	69	84	45	24	16	12	4	4	30	1	5	18	18	1,202	合計

第５表　下ノ内遺跡器種別石器石材組成表（１）

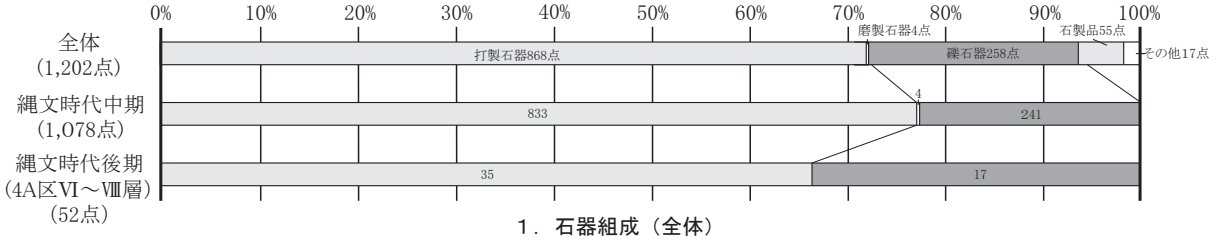
		打製石器 Ka																				磨製石器 Kb	礫石器 Kc								石製品 Kd				その他 Ke	計	
		石鏃				石匙	石匙			不定形石器					石篦		楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	石核	磨製石斧	磨石	凹石	敲石	砥石	石錘	石皿	台石	礫器	砥石（古）	石棒	石製模造品	石臼			石材
地区	石材	有茎 a1	平基 a2	内湾 a3	その他 a4	つまみ付き c2	縦型 d1	横型 d2	その他 d3	削器 e1	掻器 e2	ノッチ e4	RF e6	UF e7	半両面加工 f1	両面加工 f2	h	j	k	l	m	a	a	b	c	d	e	f	g	h	a	b	e	g			
１Ａ	珪質頁岩																1	1	1	3																6	珪質頁岩
	黒曜石																			1																1	黒曜石
	安山岩																							3												3	安山岩
	瑪瑙																			1																1	瑪瑙
小計																	1	1	1	5				3												11	小計
１Ｂ	砂岩																						1			1			1							3	砂岩
	珪質頁岩		1	4	1	3	1	1	2	13	1	1	7	6			1	22	34	71	6														175	珪質頁岩
	頁岩													1					1	1			1										1		1	6	頁岩
	凝灰岩																	1		1							1			1	6				1	11	凝灰岩
	粘板岩																																		1	1	粘板岩
	黒曜石																			2																2	黒曜石
	流紋岩																	2	3	4	1		1	3							1					15	流紋岩
	安山岩																						17	15	12	7		3			1	1		4	1	61	安山岩
	デイサイト																							1	3										1	5	デイサイト
	花崗閃緑岩																							1												1	花崗閃緑岩
	緑色片岩																																3			3	緑色片岩
	玉髄	1																		1	1															3	玉髄
	石英			1																2															1	4	石英
	鉄石英			1									1					2		2	1															7	鉄石英
	珪化木																			1																1	珪化木
小計		1	1	6	1	3	1	1	2	13	1	1	8	7			1	27	38	85	9		20	20	15	8	1	3	1	1	8	1	4	4	6	298	小計
１Ｃ	安山岩																							1												1	安山岩
１Ｄ	流紋岩																			1																1	流紋岩
２Ｃ	砂岩																								2										1	3	砂岩
	珪質頁岩		3	9	2	5	6		1	26	1	3	21	17	2	4		47	49	169	9														374	珪質頁岩
	頁岩	1									1							4		11	1			1						1						20	頁岩
	凝灰岩					2												4		14		4	1	2	1		1			1	6					36	凝灰岩
	黒曜石		1															4		10																15	黒曜石
	流紋岩																	5	1	9	3			8	2											28	流紋岩
	安山岩																						38	39	23	15		8	3	1	3			11		141	安山岩
	デイサイト																						2	2	1	1										6	デイサイト
	斑岩																							1												1	斑岩
	花崗閃緑岩																						1	1												2	花崗閃緑岩
	緑色片岩																																1			1	緑色片岩
	瑪瑙																				1															1	瑪瑙
	玉髄			3	2	3				1								9	2	45	3															68	玉髄
	石英				1								1				1	5	3	43	3														1	58	石英
	鉄石英			2														4		7	2															15	鉄石英
	珪化木																	4	1	4	1														1	11	珪化木
小計		1	4	14	5	10	6		1	27	2	3	22	17	2	4	1	86	56	312	23	4	42	54	29	16	1	8	3	3	9		1	11	3	780	小計
３Ａ	珪質頁岩																				1															1	珪質頁岩
	凝灰岩																														2				1	3	凝灰岩
	流紋岩																														2					2	流紋岩
	安山岩																						2		1						5			3		11	安山岩
	石英																																		3	3	石英
小計																					1		2		1						9			3	4	20	小計
４Ａ Ⅵ～Ⅷ	砂岩																										1									1	砂岩
	珪質頁岩		1					1		4			3					1		9	1															20	珪質頁岩
	頁岩																		1	1																2	頁岩
	凝灰岩			1																							3									4	凝灰岩
	流紋岩									1								1	1	3	1			1												8	流紋岩
	安山岩																	1					1	3			8									13	安山岩
	玉髄																	1		2																3	玉髄
	鉄石英																			1																1	鉄石英
小計			1	1				1		5			3					4	2	16	2		1	4			12									52	小計
４Ａ その他の層	珪質頁岩									2				1		1		4		7																15	珪質頁岩
	頁岩																	1		1															1	3	頁岩
	凝灰岩																										1				1					2	凝灰岩
	黒曜石																																		1	1	黒曜石
	流紋岩																			2											1				1	4	流紋岩
	安山岩																						2	2			1				1					6	安山岩
	デイサイト																											1								1	デイサイト
	玉髄																	1																		1	玉髄
	石英																																		1	1	石英
	鉄石英																			1																1	鉄石英
	珪化木																																		1	1	珪化木
小計										2				1		1		6		11			2	2			2	1			3				5	36	小計
４Ｂ	安山岩																						1													1	安山岩
５Ａ	安山岩																						1								1					2	安山岩
合計		2	6	21	6	13	7	2	3	47	3	4	33	25	2	5	3	124	97	430	35	4	69	84	45	24	16	12	4	4	30	1	5	18	18	1,202	合計

第６表　下ノ内遺跡器種別石器石材組成表（２）

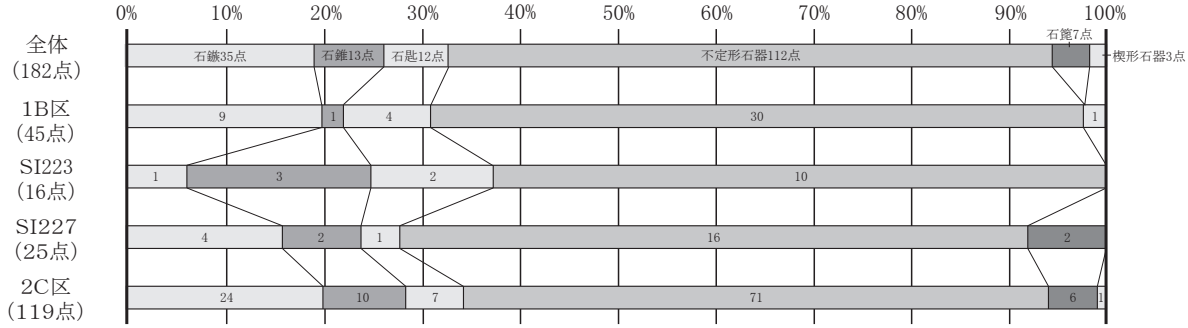
		打製石器 Ka																				磨製石器 Kb	礫石器 Kc								石製品 Kd				その他 Ke	計	
		石鏃				石匙	石匙			不定形石器					石篦		楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	石核	磨製石斧	磨石	凹石	敲石	砥石	石錘	石皿	台石	礫器	砥石（古）	石棒	石製模造品	石臼			石材
地区	石材	有茎 a1	平基 a2	内湾 a3	その他 a4	つまみ付き c2	縦型 d1	横型 d2	その他 d3	削器 e1	掻器 e2	ノッチ e4	RF e6	UF e7	半両面加工 f1	両面加工 f2	h	j	k	l	m	a	a	b	c	d	e	f	g	h	a	b	e	g			
全体	砂岩																						1		2	1	1		1						1	7	砂岩
	珪質頁岩		5	13	3	8	7	2	3	45	2	4	31	24	2	5	2	75	84	259	17															591	珪質頁岩
	頁岩	1									1			1				5	2	14	1		1	1						1			1		2	31	頁岩
	凝灰岩			1		2												5		15		4	1	2	1		6			2	15				2	56	凝灰岩
	粘板岩																																		1	1	粘板岩
	黒曜石		1															4		13															1	19	黒曜石
	流紋岩									1								8	5	19	5		1	12	2						4				1	58	流紋岩
	安山岩																	1					62	63	36	22	9	11	3	1	11	1		18	1	239	安山岩
	デイサイト																						2	3	4	1		1							1	12	デイサイト
	斑岩																							1												1	斑岩
	花崗閃緑岩																						1	2												3	花崗閃緑岩
	緑色片岩																																4			4	緑色片岩
	瑪瑙																			1	1															2	瑪瑙
	玉髄	1		3	2	3				1								11	2	48	4															75	玉髄
	石英			1	1								1				1	5	3	45	3														6	66	石英
	鉄石英			3									1					6		11	3															24	鉄石英
	珪化木																	4	1	5	1														2	13	珪化木
合計		2	6	21	6	13	7	2	3	47	3	4	33	25	2	5	3	124	97	430	35	4	69	84	45	24	16	12	4	4	30	1	5	18	18	1,202	合計



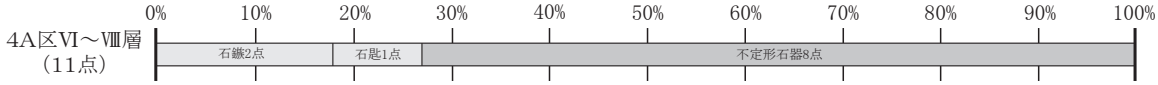
第279図　SX99性格不明遺構



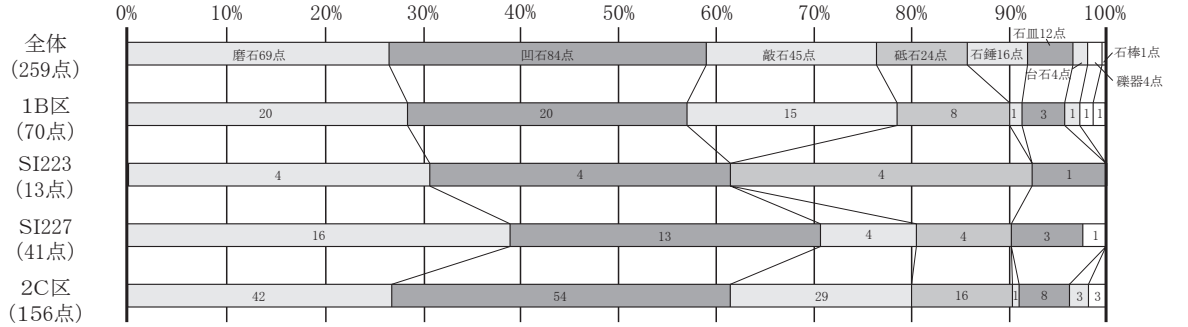
１．石器組成（全体）



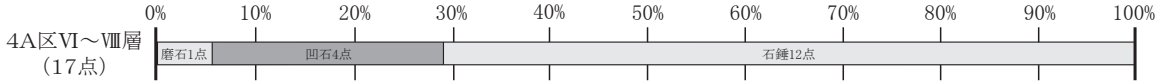
２．縄文時代中期石器組成（打製石器）



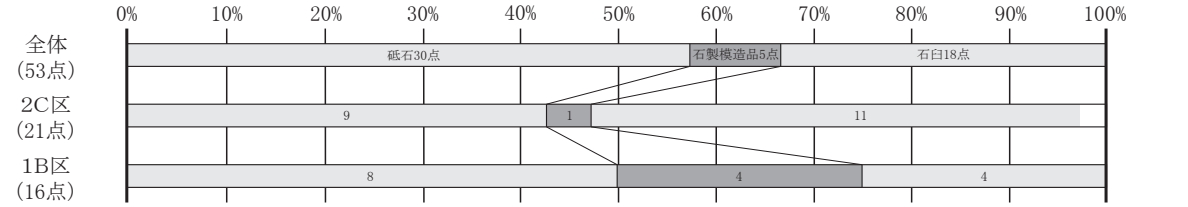
３．縄文時代後期石器組成（打製石器）



４．縄文時代中期石器組成（礫石器）

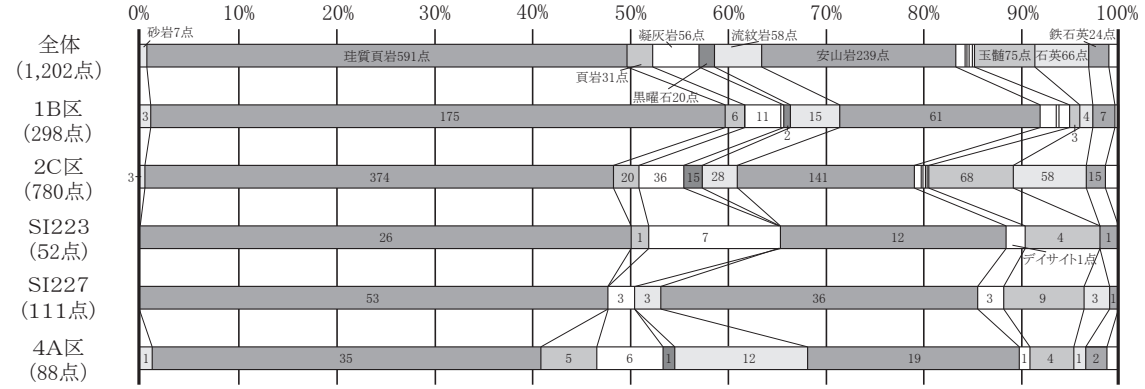


５．縄文時代後期石器組成（礫石器）

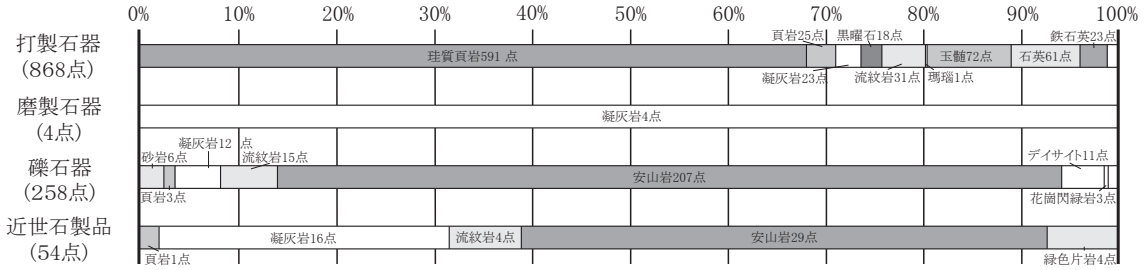


６．近世石製品組成

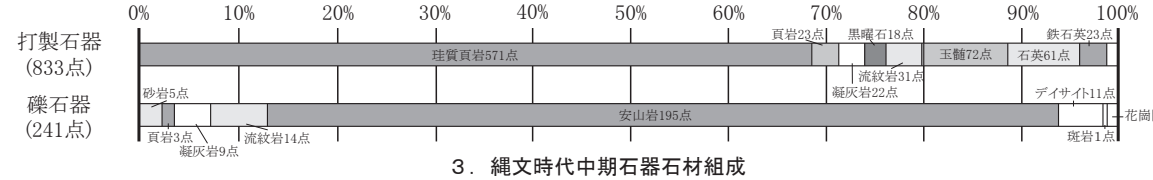
第280図　石器組成グラフ



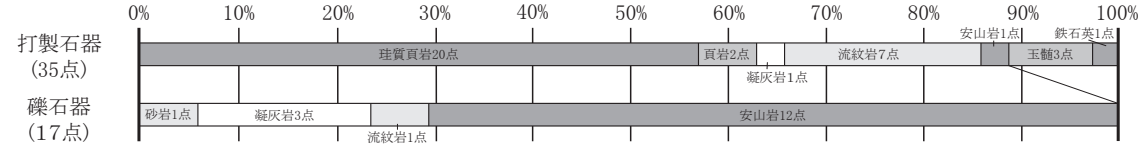
１．地区別石器石材組成



２．石器別石材組成



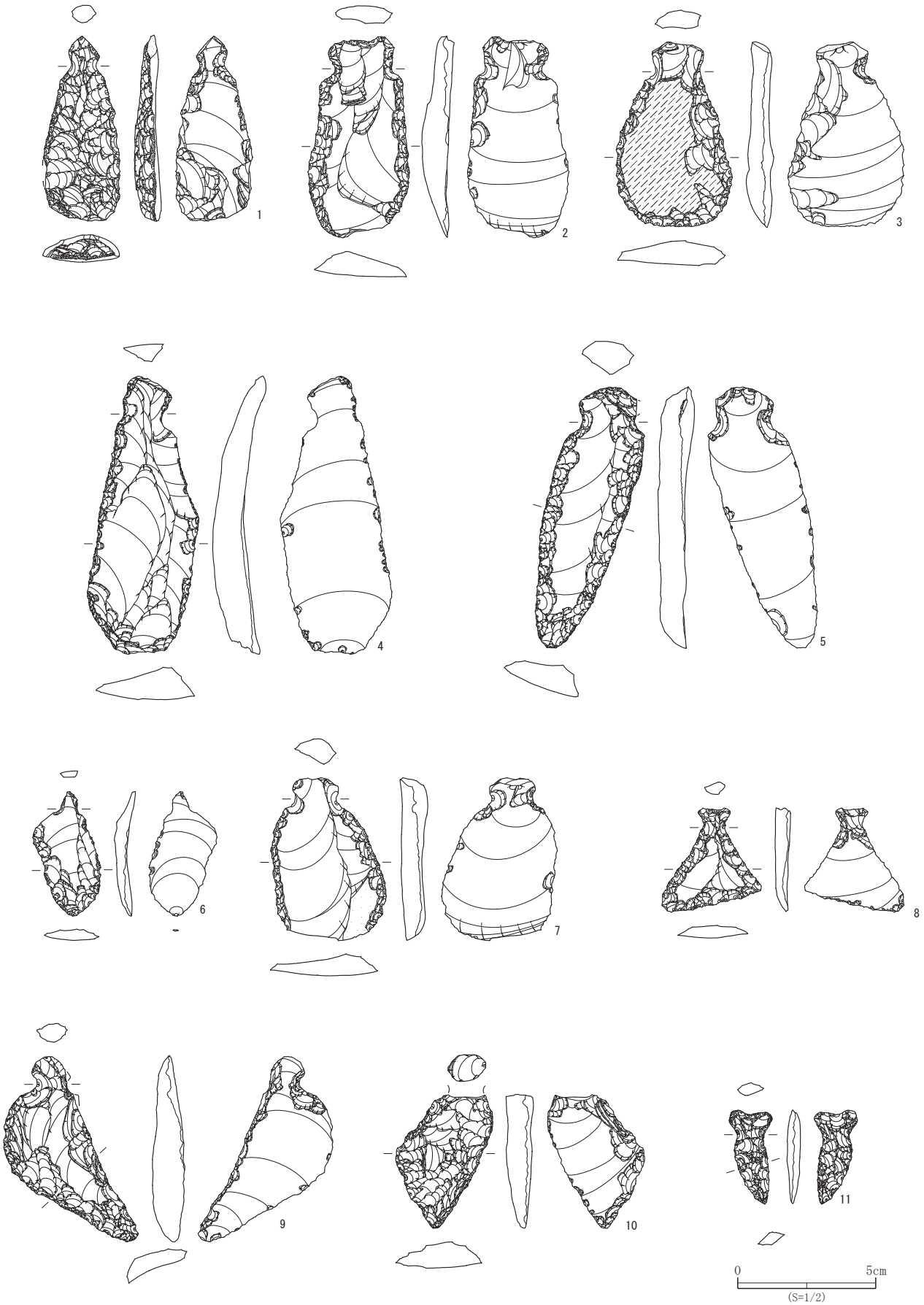
３．縄文時代中期石器石材組成



４．縄文時代後期（４Ａ区Ⅵ～Ⅷ層）石器石材組成

第281図　石器石材組成グラフ

第282図　縄文時代中期後半出土の主な石器（１）

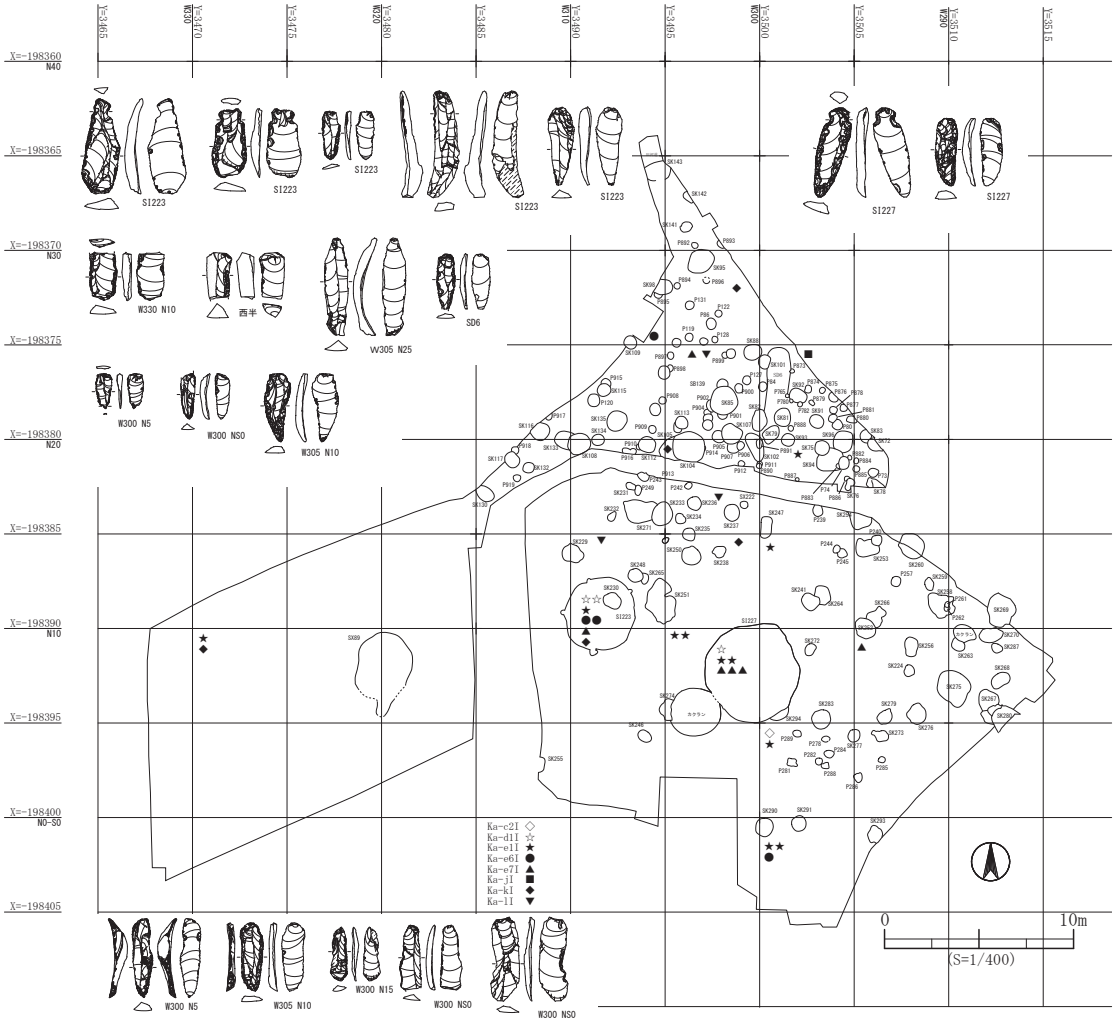


第283図　縄文時代中期後半出土の主な石器（２）

第284図　縄文時代中期後半出土の主な石器（３）

第７表　石刃状剥片組成表

		打製石器 Ka																					
		石鏃				石錐		石匙			不定形石器					石篦		楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	計	
地区	層位・遺構	有茎 a1	平基 a2	凹基 a3	その他 a4	つまみ付き c2	その他 c3	縦型 d1	横型 d2	その他 d3	削器 e1	掻器 e2	ノッチ e4	RF e6	UF e7	半両面加工 f1	両面加工 f2	h	j	k	l		層位・遺構
1B	SK105																			1		1	SK105
	Ⅷ																						Ⅷ
	Ⅸ										2											2	Ⅸ
	Ⅺ													1	1				1	2		5	Ⅺ
	Ⅻ																						Ⅻ
	その他の層										1											1	その他の層
小計											3			1	1				1	3		9	小計
2C	SI223							2			1			2	1					1		7	SI223
	SI227							1			2				3							6	SI227
	Ⅸ					1					1										1	3	SK294
	Ⅺ										5			1	1					1	1	9	Ⅺ
	Ⅻ																						Ⅻ
	その他の層																						その他の層
小計						1		3			9			3	5					2	2	25	小計
4A	Ⅷ～Ⅹ										1											1	Ⅵ～Ⅷ
合計						1		3			13			4	6				1	5	2	35	合計



第285図　石刃状剥片分布図

第８表　遺構一覧表（１）

１Ａ区Ⅴ層

掘立柱建物跡

遺構番号	位置（グリッド）	主軸方位	柱間数	建物規模（m）	時 期
SB2	W250～260・N20	(N-19°-E)	桁行1間以上×梁行2間	3.75×[1.65]	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
SD1	W260・N20	N-20°-E	長さ[1.48]×幅0.20～0.33×深さ0.05～0.07	直線・U字形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
Ⅰ-1	W270・N20	N-10°-E	長さ[1.42]×幅0.20～0.30×深さ0.05	ほぼ直線・(U字形)	
Ⅰ-2	W270・N20	N-3°-E	長さ[1.55]×幅0.20～0.25×深さ0.05	直線・(U字形)	
Ⅱ-1	W270・N20	N-70°-W	長さ1.30×幅0.25～0.50×深さ0.05～0.07	直線・(U字形)	
Ⅱ-2	W260～270・N20	N-74°-W	長さ[4.10]×不明	直線・(U字形)	

１Ｂ区Ⅲ層

掘立柱建物跡

遺構番号	位置（グリッド）	主軸方位	柱間数	建物規模（m）	時 期
SB47	W330・N10～20	N-2°-E	桁行３間×梁行１間	5.40～5.70×3.75	

井戸跡

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SE38	W330・N20	-	径154×深さ280以上	ほぼ円形・漏斗形	

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SK12	W310・N20	-	径120×深さ26	ほぼ円形・幅広のU字形	近世
SK13	W320・N10	N-87°-W	長軸250×短軸90～160×深さ12～16	台形・皿状	中世以降
SK14	W320・N10	N-7°-E	長軸86×短軸70×深さ10	楕円形・皿状	19世紀前半～中葉
SK15	W320・N10	N-82°-W	長軸110×短軸86×深さ7	楕円形・皿状	
SK16	W320・N10	N-86°-E	長軸350×短軸44～140×深さ2～10	不整楕円形・皿状	19世紀前半
SK17	W320・N10	N-33°-W	長軸140×短軸80×深さ5～12	不整楕円形・柄杓状	
SK18	W320・N10	N-86°-W	長軸63×短軸44×深さ42	長方形・U字形	
SK19	W320～330・N10	-	径80×深さ25	ほぼ円形・幅広のU字形	
SK20	W320・N10	-	径70×深さ7	ほぼ円形・皿状	
SK21	W330・N10	-	径120×深さ51	ほぼ円形・U字形	
SK26	W330・N10	N-76°-E	長軸120×短軸98×深さ20	楕円形・幅広のU字形	
SK27	W330・N10	N-8°-W	長軸80×短軸60×深さ12	隅丸長方形・幅広のU字形	
SK28	W330・N10	-	径94×深さ22	ほぼ円形・逆台形	
SK29	W330・N10	N-71°-W	長軸102×短軸55×深さ10～22	不整楕円形・逆台形	
SK30	W330・N10	-	長軸85×短軸70×深さ38	ほぼ円形・U字形	
SK31	W330・N0-S 0	-	径145×深さ1～8	不整円形・皿状	近世
SK32	W330・N10	N-13°-W	長軸134×短軸72×深さ4	隅丸長方形・皿状	
SK37	W320・N10	-	南北50×東西[30]×深さ40	(楕円形)・逆台形	
SK39	W300～310・N30	-	南北[220]×東西[120]×深さ25	不明・逆台形	近世
SK40	W310・N30	N-75°-W	長軸80×短軸47×深さ9～15	楕円形・逆台形	
SK42	W310・N30	N-7°-E	長軸175×短軸90×深さ8	(不整隅丸長方形)・皿状	
SK43	W310・N30	(N-86°-E)	南北215×東西[215]×深さ102	(楕円形)・漏斗形	
SK44	W340・N10	-	東西[100]×南北[60]×深さ25～33	(楕円形)・逆台形	
SK45	W310・N30	-	南北[162]×東西[105]×深さ48	(楕円形)・漏斗形	15世紀末以降

河川跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
SR3	W310～320・N40～50	東西	-	-	

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SX36	W320・N0-S0～N10	-	南北[320]×東西[80]×深さ52	-	
SX41	W310・N30～40	N-23°-E	長軸385×短軸35～90×深さ4～17	溝状・逆台形	

ピット列

遺構番号	位置（グリッド）	方向	ピット数	建物規模（m）	時 期
46号	W330・N10	東西	４基	5.85～6.00	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
SD4	W300・N20～30	N-10°-E	長さ[5.70]×幅0.70～0.98×深さ0.12～0.33	直線・幅広のU字形	古代以降
SD5	W300・N20～30	N-10°-E	長さ[7.20]×幅0.58～0.93×深さ0.13～0.16	ほぼ直線・幅広のU字形	
SD6	W300～310・N20～30	N-10°-E	長さ[12.10]×幅3.50～4.50×深さ0.68～1.80	ほぼ直線・漏斗形	
SD7	W310・N20～30	N-15°-E・N-75°-W	長さ[13.50]×幅2.20～3.80×深さ1.08～1.12	鉤の手状・逆台形	古代～
SD8	W330～340・N10～20	N-15°-E・N-86°-W	長さ[17.00]×幅1.00～1.50×深さ0.55～0.65	逆L字状・逆台形～U字形	近世
SD9	W330～340・N10～20	南北	長さ[11.60]×幅2.03～2.52×深さ0.69～1.13	直線・V字形～逆台形	
SD10	W330～340・N0-S0～N10	東西	長さ[7.00]×幅3.00～3.60×深さ1.20前後	直線・V字形～逆台形	19世紀前半頃
SD11	W330～340・N0-S0	(東西)	長さ[12.10]×幅2.80×深さ0.75	直線・逆台形	
SD33	W320～330・N10	東西	長さ[15.40]×幅0.20～0.50×深さ0.03～0.09	直線・(幅広のU字形)	
SD34	W330・N0-S0～N10	N-85°-E	長さ3.35×幅0.20～0.48×深さ0.05	直線・(U字形)	
SD35	W330・N10～20	N-14°-E	長さ9.80×幅0.50～0.75×深さ0.15～0.21	直線・逆台形	古代～
SD48	W330～340・N10	N-66°-E	長さ6.05×幅0.40～1.10×深さ0.05～0.31	直線・(U字形)	

第９表　遺構一覧表（２）

１Ｂ区Ⅴ・Ⅵ層

竪穴住居跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	カマド	時 期
SI46	W310・N30	N-８°-E	東西(4.75)×南北(4.70)×壁高0.29	北壁中央	8世紀後半
SI51	W300・N20～30	N-145°-E	東西5.10×南北5.10×壁高0.57	南東壁南隅寄り	5世紀後半
SI52	W300～310・N30～40	N-49°-E	北西-南東[6.84]×北東-南西[1.52]×壁高0.35	-	

掘立柱建物跡

遺構番号	位置（グリッド）	主軸方位	柱間数	建物規模（m）	時 期
SB50	W320・N20	N-11°-E	桁行２間×梁行２間	3.30～3.45×2.85～3.15	
SB53	W310～320・N20～30	(N-76°-W)	桁行２間×梁行２間以上	3.30～3.45×2.85～3.15	

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SK49	W320・N10～20	N-35°-W	長軸85×短軸48×深さ21	楕円形・逆台形	
SK54	W310・N30	N-22°-W	長軸74×短軸54×深さ17	楕円形・逆台形	
SK55	W310・N30	N-72°-E	長軸61×短軸50×深さ21	隅丸長方形・U字形	
SK56	W310・N30	N-50°-W	長軸158×短軸116×深さ15～26	楕円形・幅広のU字形	

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SX48	W330・N0-S0～N10	N-35°-E	長軸165×短軸160×深さ30～50	不整形・逆台形	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
SD45	W320～330・N10～20	N-55°-W	長さ[20.00]×幅0.65～1.40×深さ0.19～0.35	直線・U字形	
SD47	W300・N20	N-14°-E	長さ[4.54]×幅0.50～0.75×深さ0.07～0.27	ほぼ直線・逆台形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
Ⅰ-1	W330～340・N0-S0～N10	N-29°-W	長さ9.50×幅0.40～0.68×深さ0.12～0.32	わずかに湾曲・U字形	
Ⅰ-2	W340・N10～20	N-36°-W	長さ[16.60]×幅0.30～0.60×深さ0.08～0.33	やや蛇行・U字形	
Ⅰ-3	W330・N0-S0～N10	N-30°-W	長さ[9.25]×幅0.38～0.50×深さ0.06～0.23	わずかに湾曲・U字形	
Ⅰ-4	W330・N0-S0～N10	N-32°-W	長さ[10.50]×幅0.24～0.54×深さ0.06～0.27	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-5	W330・N10	N-27°-W	長さ4.25×幅0.24～0.34×深さ0.15～0.26	直線・U字形	
Ⅰ-6	W330・N0-S0～N10	N-37°-W	長さ[8.95]×幅0.22～0.34×深さ0.16～0.34	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-7	W330～340・N0-S0～N10	N-35°-W	長さ[17.10]×幅0.30～0.70×深さ0.25～0.35	わずかに屈曲・U字形	
Ⅰ-8	W330・N10	N-37°-W	長さ3.60×幅0.18～0.28×深さ0.15	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-9	W330・N0-S0～N10	N-30°-W	長さ[10.40]×幅0.22～0.52×深さ0.10～0.23	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-10	W330・N10	N-29°-W	長さ6.10×幅0.18～0.30×深さ0.06～0.18	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-11	W330・N0-S0	N-27°-W	長さ[1.00]×幅0.18～0.24×深さ0.11～0.22	直線・U字形	
Ⅰ-12	W330・N0-S0～N10	N-36°-W	長さ[9.60]×幅0.22～0.34×深さ0.10～0.20	やや蛇行・U字形	
Ⅰ-13	W320～330・N0-S0～N20	N-35°-W	長さ[16.50]×幅0.35～0.60×深さ0.17～0.24	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-14	W320～330・N10	N-36°-W	長さ[8.50]×幅0.20～0.35×深さ0.17～0.28	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-15	W320～330・N10	N-34°-W	長さ[10.05]×幅0.24～0.40×深さ0.09～0.28	直線・U字形	
Ⅰ-16	W320～330・N10～20	N-35°-W	長さ[15.70]×幅0.35～0.60×深さ0.23～0.52	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-17	W320・N10	N-23°-W	長さ1.10×幅0.20～0.25×深さ0.15～0.19	直線・U字形	
Ⅰ-18	W320・N10	N-30°-W	長さ[4.45]×幅0.20～0.65×深さ0.11～0.28	直線・U字形	
Ⅰ-19	W320・N10	N-41°-W	長さ[7.20]×幅0.20～0.28×深さ0.06～0.10	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-20	W320～330・N10	N-41°-W	長さ[11.30]×幅0.25～0.45×深さ0.01～0.17	やや蛇行・U字形	
Ⅰ-21	W320・N10	N-43°-W	長さ1.30×幅0.14～0.20×深さ0.17	直線・U字形	
Ⅰ-22	W320～330・N10～20	N-34°-W	長さ[12.95]×幅0.35～0.56×深さ0.11～0.31	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-23	W330・N20	N-48°-W	長さ[4.25]×幅0.20～0.35×深さ0.04～0.12	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-24	W330・N20	N-28°-W	長さ1.30×幅0.15～0.20×深さ0.08	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-25	W320～330・N20	N-24°-W	長さ4.65×幅0.18～0.25×深さ0.08～0.11	直線・U字形	
Ⅰ-26	W320・N10～20	N-35°-W	長さ7.80×幅0.32～0.65×深さ0.07～0.48	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-27	W320・N10～20	N-43°-W	長さ[7.50]×幅0.15～0.30×深さ0.03～0.15	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-28	W320・N10～20	N-40°-W	長さ3.00×幅0.22～0.35×深さ0.09～0.16	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-29	W320・N10	N-39°-W	長さ[2.50]×幅は不明×深さ0.05～0.10	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-30	W320～330・N10～20	N-36°-W	長さ[12.90]×幅0.26～0.64×深さ0.14～0.35	やや蛇行・U字形	
Ⅰ-31	W320・N20	N-25°-W	長さ[9.40]×幅0.30～0.50×深さ0.09～0.38	やや蛇行・U字形	
Ⅰ-32	W320・N20	N-18°-W	長さ4.00×幅0.20～0.32×深さ0.10～0.12	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-1	W320・N20	N-78°-E	長さ0.85×幅0.15～0.20×深さ0.04	直線・(U字形)	
Ⅱ-2	W320・N20	N-78°-W	長さ[5.70]×幅0.25～0.35×深さ0.15～0.20	直線・U字形	
Ⅱ-3	W320・N20	N-57°-E	長さ1.95×幅0.20～0.25×深さ0.11～0.14	わずかに屈曲・U字形	
Ⅱ-4	W320～330・N20	N-80°-W	長さ3.10×幅0.28～0.40×深さ0.06～0.10	直線・U字形	
Ⅱ-5	W320・N20	N-70°-E	長さ3.00×幅0.20～0.38×深さ0.10	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-6	W320・N10～20	N-70°-W	長さ[5.90]×幅0.30～0.45×深さ0.06～0.14	直線・U字形	
Ⅱ-7	W340・N20	N-75°-W	長さ2.95×幅0.28～0.35×深さ0.07	わずかに屈曲・U字形	
Ⅱ-8	W340・N10～20	N-77°-W	長さ3.20×幅0.30～0.58×深さ0.10～0.23	やや蛇行・U字形	
Ⅱ-9	W340・N10	東西	長さ2.10×幅0.30～0.46×深さ0.10～0.12	直線・U字形	
Ⅱ-10	W320・N10	N-68°-W	長さ[6.40]×幅0.20～0.36×深さ0.07～0.10	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-11	W330～340・N0-S0～N10	N-71°-W	長さ[15.10]×幅0.30～0.50×深さ0.09～0.17	わずかに屈曲・U字形	
Ⅱ-12	W330～340・N0-S0	N-72°-W	長さ[8.75]×幅0.25～0.50×深さ0.16～0.23	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-13	W340・N0-S0	N-83°-W	長さ[4.10]×幅0.20～0.40×深さ0.09～0.15	わずかに屈曲・U字形	
Ⅱ-14	W330～340・N0-S0	N-65°-E	長さ4.16×幅0.30～0.40×深さ0.11～0.37	直線・U字形	
Ⅱ-15	W320・N20	N-70°-E	長さ[7.10]×幅0.35～0.52×深さ0.01～0.35	ほぼ直線・U字形	
Ⅲ-1	W310・N30	東西	長さ2.50×幅0.20～0.25×深さ0.07～0.43	直線・U字形	

第10表　遺構一覧表（３）

１Ｂ区Ⅴ・Ⅵ層
小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
Ⅲ-２	W310・N30	N-82°-W	長さ2.35×幅0.25～0.30×深さ0.12～0.36	直線・U字形	
Ⅲ-３	W300～320・N30	N-81°-W	長さ[17.15]×幅0.20～0.30×深さ0.10～0.58	やや蛇行・U字形	
Ⅲ-４	W300～320・N20～30	N-81°-W	長さ[20.25]×幅0.20～0.38×深さ0.07～0.53	やや蛇行・U字形	
Ⅲ-５	W300～320・N20～30	N-80°-W	長さ[21.65]×幅0.25～0.48×深さ0.07～0.20	やや蛇行・U字形	
Ⅲ-６	W310～320・N20	N-80°-W	長さ4.00×幅0.20～0.30×深さ0.11～0.38	ほぼ直線・U字形	
Ⅳ-１	W310・N30～40	N-18°-W	長さ2.60×幅0.20～0.25×深さ0.10～0.45	ほぼ直線・U字形	
Ⅳ-２	W310・N30	N-30°-W	長さ1.90×幅0.20～0.25×深さ0.07～0.13	ほぼ直線・U字形	
Ⅳ-３	W310・N30	N-40°-W	長さ2.75×幅0.25～0.32×深さ0.04～0.05	直線・(U字形)	
Ⅳ-４	W310・N20～30	N-42°-W	長さ1.90×幅0.20～0.30×深さ0.05～0.13	ほぼ直線・U字形	
Ⅳ-５	W310・N20～30	N-41°-W	長さ3.30×幅0.20～0.25×深さ0.05～0.07	ほぼ直線・(U字形)	
Ⅳ-６	W310・N20～30	N-40°-W	長さ3.25×幅0.20～0.35×深さ0.06～0.13	ほぼ直線・U字形	
Ⅳ-７	W310・N20～30	N-８°-E	長さ1.10×幅0.25～0.32×深さ0.07	直線・(U字形)	
Ⅳ-８	W310・N20	N-39°-W	長さ0.80×幅0.20×深さ0.05	直線・(U字形)	
Ⅳ-９	W310・N20	N-31°-W	長さ0.80×幅0.20～0.34×深さ0.02～0.05	直線・(U字形)	
Ⅴ-１	W300・N30	東西	長さ[0.75]×幅0.22×深さ0.06	直線・(U字形)	
Ⅴ-２	W300・N30	N-80°-W	長さ[2.10]×幅0.20～0.35×深さ0.08～0.10	ほぼ直線・U字形	
Ⅴ-３	W300・N30	N-75°-W	長さ[3.10]×幅0.20～0.35×深さ0.10～0.16	ほぼ直線・U字形	
Ⅴ-４	W300・N30	N-75°-W	長さ[3.05]×幅0.20×深さ0.05～0.10	ほぼ直線・U字形	
Ⅴ-５	W300・N20～30	N-68°-W	長さ3.75×幅0.20～0.30×深さ0.14	ほぼ直線・U字形	
Ⅴ-６	W300・N20～30	N-65°-W	長さ3.05×幅0.20×深さ0.05～0.11	ほぼ直線・U字形	
Ⅴ-７	W300・N20	N-65°-W	長さ2.10×幅0.20～0.30×深さ0.05～0.10	直線・U字形	
Ⅴ-８	W300・N20	N-18°-W	長さ0.60×幅0.20～0.25×深さ0.03	ほぼ直線・(U字形)	
Ⅴ-９	W300・N20	N-62°-W	長さ1.60×幅0.20×深さ0.05	直線・U字形	
Ⅴ-10	W300・N20	N-61°-W	長さ1.30×幅0.15～0.25×深さ0.10	ほぼ直線・U字形	
Ⅴ-11	W320・N20	N-74°-E	長さ[1.05]×幅0.20～0.30×深さ0.12～0.16	ほぼ直線・U字形	

１Ｂ区Ⅶ層
性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SX59	W340・N0-S0～N10	N-44°-E	径105×深さ35	不整形円形・開いたU字形	縄文後期

１Ｂ区Ⅸ層
性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SX69	W340・N0-S0～N10	N-59°-E	長軸[100]×短軸80×深さ19	(不整形)・皿状	縄文後期

１Ｂ区Ⅺ層上面
竪穴住居跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	炉	時 期
SI100	W300～310・N30	-	-	不明	縄文中期末葉

埋設土器

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SX57	W310・N20	-	長軸52×短軸44×深さ25	不整楕円形・U字形	縄文中期末葉
SX60	W310・N40	-	長軸55×短軸45×深さ45	不整楕円形・U字形	縄文中期末葉
SX61	W310・N40	-	径35×深さ35	ほぼ円形・U字形	縄文中期末葉
SX64	W310～320・N30	-	径42×深さ55	(不整円形)・U字形	縄文中期末葉
SX67	W310・N20	-	径55×深さ42	不整円形・U字形	縄文中期末葉

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SX62	W310・N30	-	南北180×東西60×厚さ4	不整な帯状	
SX65	W300・N30	-	石囲範囲径70・掘り込み範囲長軸45×短軸35×深さ17	不整形	
SX82	W310・N30	-	南北70×東西55×厚さ4	不整な帯状	

１Ｂ区Ⅺ層中位
土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SK84	W340・N0-S0～N10	N-85°-W	長軸105×短軸82×深さ8	不整楕円形・皿状	
SK90	W330・N10	N-25°-E	長軸70×短軸65×深さ25	五角形・箱形	
SK97	W320・N10	-	径125×深さ44	不整円形・箱形	縄文中期末葉
SK106	W330・N10	-	径70×深さ20	ほぼ円形・逆台形	
SK111	W320・N10～20	N-75°-W	長軸90×短軸76×深さ48	不整楕円形・円筒形～フラスコ状	縄文中期末葉

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SX63	W310・N30	-	長軸80×短軸68×焼土の厚さ4	楕円形・炉？	縄文後期初頭
SX66	W300・N30	-	東西120×南北60	-	
SX68	W310・N30	-	北東-南西170×北西-南東100×厚さ10	不整形	
SX99	W310・N30	-	20×15（剥片石器分布範囲）	-	
SX114	W320・N20	N-18°-W	長軸148×短軸98×深さ90	不整楕円形・フラスコ状～擂鉢状	

第11表　遺構一覧表（４）

１Ｂ区Ⅶ層
掘立柱建物跡

遺構番号	位置（グリッド）	主軸方位	ピット数	建物規模（m）	時 期
SB139	W310・N30	N-18°-E	８本（亀甲形）	3.80×3.00	

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SK72	W300・N20	-	東西[80]×南北[70]×深さ32	(楕円形)・逆台形	縄文中期末葉
SK74	W300・N20	N-２°-W	長軸68×短軸55×深さ18	楕円形・逆台形	
SK75	W300・N20	-	径80×深さ17	ほぼ円形・皿状	
SK76	W300・N20	N-25°-E	長軸65×短軸45×深さ29	楕円形・逆台形	
SK78	W300・N20	N-54°-W	長軸[105]×短軸60×深さ37	(楕円形)・不整形	
SK79	W300・N20～30	N-50°-E	長軸105×短軸70×深さ20	楕円形・幅広のU字形	縄文中期末葉
SK81	W300・N30	-	径100×深さ35	ほぼ円形・フラスコ状	縄文中期末葉
SK82	W300～310・N30	N-13°-E	長軸115×短軸80×深さ32	楕円形・U字形	
SK83	W300・N20～30	-	径[70]×深さ23	(ほぼ円形)・U字形	
SK85	W310・N30	-	径150×深さ45	ほぼ円形・フラスコ状	縄文中期末葉
SK88	W310・N30	N-87°-E	長軸95×短軸82×深さ25	楕円形・逆台形	縄文中期末葉
SK91	W300・N30	-	径82×深さ12	ほぼ円形・幅広のU字形	
SK92	W300・N30	N-65°-W	長軸95×短軸75×深さ20	楕円形・幅広のU字形	縄文中期末葉
SK93	W300・N20～30	-	径73×深さ27	ほぼ円形・フラスコ状	
SK94	W300・N20	N-87°-W	長軸150×短軸122×深さ25	不整楕円形・幅広のU字形	縄文中期末葉
SK95	W310・N30	N-45°-E	長軸150×短軸[123]×深さ80	(楕円形)・フラスコ状	縄文中期末葉
SK96	W300・N20～30	N-４°-E	長軸115×短軸100×深さ28	隅丸方形・逆台形	
SK98	W310・N30	N-71°-E	長軸[108]×短軸70×深さ30	(楕円形)・U字形	
SK101	W300～310・N30	-	南北72×東西[60]×深さ29	(円形or楕円形)・U字形	
SK102	W300～310・N20～30	N-20°-W	長軸160×短軸80×深さ20	楕円形・逆台形	
SK104	W310・N20～30	-	径170×深さ70	ほぼ円形・フラスコ状	縄文中期末葉
SK105	W310・N20	-	不明×深さ40	(円形or楕円形)・(逆台形)	縄文中期末葉
SK107	W310・N20～30	-	径110×深さ66	不整円形・フラスコ状	縄文中期末葉
SK108	W310～320・N20～30	-	径120×深さ45	ほぼ円形・フラスコ状	縄文中期末葉
SK109	W310・N30	-	径65×深さ25	ほぼ円形・逆台形	縄文中期末葉
SK112	W310・N20～30	-	径90×深さ20	ほぼ円形・幅広のU字形	
SK113	W310・N30	-	径65×深さ31	ほぼ円形・U字形	
SK115	W310・N30	-	径70×深さ22	ほぼ円形・箱形	
SK116	W320・N30	-	北東-南西98×北西-南東[85]×深さ15	(円形or楕円形)・皿状	
SK117	W320・N20	N-42°-W	長軸83×短軸72×深さ23	楕円形・U字形	
SK130	W320・N20	N-50°-W	長軸[98]×短軸72×深さ25	(楕円形)・幅広のU字形	
SK132	W320・N20	-	径55×深さ23	ほぼ円形・U字形	
SK133	W310～320・N20～30	N-76°-W	長軸[100]×短軸90×深さ17	(楕円形)・幅広のU字形	
SK134	W310・N20～30	-	径65×深さ30	ほぼ円形・逆台形	
SK135	W310・N30	-	径105×深さ29	ほぼ円形・逆台形	
SK141	W310・N40	-	径60×深さ35	ほぼ円形・U字形	縄文中期末葉
SK142	W310・N40	N-44°-W	北西-南東68×北東-南西[30]×深さ25	(楕円形)・U字形	
SK143	W310・N40	-	東西[134]×南北[98]×深さ24	不明・(幅広のU字形)	縄文中期末葉

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SX89	W320～330・N10	N-５°-E	長軸448×短軸60～285×深さ35～70	不整形・不整形	縄文後期初頭

1C区Ⅲ層
土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SK136	W310・S20	N-88°-E	長軸144×短軸125×深さ32	楕円形・幅広のU字形	
SK138	W310・S20		南北92×東西[60]×深さ12	(楕円形or円形)・U字形	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
SD137	W300～310・S20	N-88°-W	検出長[9.10]×幅0.85～1.50×深さ0.14～0.21	ほぼ直線・幅広の逆台形	

１Ｃ区Ⅳ層
溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
SD140	W300～310・S20	N-81°-W	検出長[8.20]×幅0.55～1.06×深さ0.15～0.30	ほぼ直線・幅広の逆台形	
水田跡	W305～290・S25～40		東西8.00×南北11.50		

１Ｃ区Ⅵ層
竪穴住居跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	カマド	時 期
SI144	W300～310・S20～30	N-16°-E	東西4.45×南北4.30	北壁中央	9世紀前半

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SK145	W300・S30	-	南北113×東西[72]×深さ5～12	(楕円形)・皿状	
SK146	W310・S20	-	南北[60]×東西[45]×深さ7	不明・皿状	
SK147	W300・S20	南北	長軸55×短軸46×深さ41	楕円形・U字形	

第12表　遺構一覧表（５）

１Ｃ区Ⅵ層
河川跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
SR152	W300～310・S30	東西	-	-	

小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
Ⅰ-1	W300～310・S20	N-77°-W	長さ[9.00]×幅0.16～0.30×深さ0.04～0.11	やや屈曲・U字形	
Ⅰ-2	W300・S20	N-65°-W	長さ[6.40]×幅0.25～0.40×深さ0.01～0.07	ほぼ直線・（U字形）	
Ⅰ-3	W300～310・S20	N-75°-W	長さ[2.20]×幅0.26～0.36×深さ0.08～0.13	わずかに湾曲・U字形	
Ⅱ-1	W300・S20	N-89°-E	長さ[3.70]×幅0.20～0.38×深さ0.07～0.11	やや蛇行・U字形	
Ⅱ-2	W300～310・S20	N-86°-W	長さ[8.30]×幅0.20～0.38×深さ0.02～0.05	わずかに蛇行・（U字形）	
Ⅱ-3	W300・S20	N-88°-W	長さ3.85×幅0.22～0.28×深さ0.03～0.05	わずかに蛇行・（U字形）	
Ⅱ-4	W300・S20	N-81°-W	長さ[3.05]×幅0.34～0.42×深さ0.03～0.05	ほぼ直線・（U字形）	
Ⅲ-1	W310・S20	N-41°-E	長さ[1.35]×幅0.18～0.25×深さ0.06～0.08	直線・U字形	
Ⅲ-2	W300・S30	N-37°-E	長さ[2.35]×幅0.20～0.28×深さ0.03	ほぼ直線・（U字形）	
Ⅲ-3	W300・S30	N-31°-E	長さ1.15×幅0.15×深さ0.01～0.04	直線・（U字形）	
Ⅲ-4	W300・S30	N-26°-E	長さ3.50×幅0.15～0.20×深さ0.03～0.06	わずかに屈曲・（U字形）	
Ⅳ-1	W310・S20	N-30°-W	長さ[1.55]×幅0.16～0.26×深さ0.02～0.03	直線・（U字形）	
Ⅳ-2	W300・S20	N-28°-W	長さ[3.20]×幅0.14～0.22×深さ0.04～0.08	ほぼ直線・（U字形）	
Ⅳ-3	W300・S20	N-26°-W	長さ[1.75]×幅0.18～0.42×深さ0.07	ほぼ直線・（U字形）	
Ⅳ-4	W300・S20～30	N-33°-W	長さ4.90×幅0.10～0.22×深さ0.03～0.07	やや屈曲・（U字形）	
Ⅳ-5	W300・S30	N-34°-W	長さ2.70×幅0.15～0.25×深さ0.03～0.06	ほぼ直線・（U字形）	

１Ｄ区Ⅲ層
井戸跡

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SE148	W360～370・N30～40	-	径93×深さは不明	ほぼ円形・円筒形	

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SK149	W360・N40	N-10°-E	長軸184×短軸130×深さ13	隅丸長方形・幅広のU字形	9世紀前半以降

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SX145	W360・N50	（N-79°-W）	東西[320]×南北[230]×深さ15	（楕円形or隅丸長方形）・不明	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
SD147	W360～370・N30～40	N-84°-E・N-4°-W	検出長[13.00]×幅2.10～2.70×[深さ0.8]	逆L字状・不明	

２Ａ区Ⅴ層
土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SK153	W410・S60	-	東西[212]×南北[68]×深さ57	（楕円形or円形）・概ね逆台形	
SK154	W400・S60	N-64°-E	長軸[110]×短軸55～80×深さ5～30	（不整楕円形）・柄杓状	
SK155	W410・S60	-	径42×深さ13	ほぼ円形・U字形	
SK156	W410・S60	N-2°-W	長軸70×短軸50×深さ18	不整楕円形・U字形	

河川跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
SR157	W370～400・S50～70	東西	-	-	
SR158	W410・S40～50	-	-	-	
SR160	W370・S70	（東西）	-	-	

２Ｂ区Ⅴ層
河川跡

遺構番号	位置（グリッド）	方 向	規模（m）	平面形・断面形	時 期
SR159	W390・S20～30	南北	-	-	

２Ｃ区Ⅲ層
掘立柱建物跡

遺構番号	位置（グリッド）	主軸方位	柱間数	建物規模（m）	時 期
SB1	W290～300・N10～20	南北	桁行2間×梁行1間	3.30×1.95～2.10	
SB2	W300・N10	N-89°-E	桁行2間×梁行1間	5.40×2.55	
SB3	W300・N10	N-88°-E	桁行3間×梁行1間	4.20～4.35×2.85～3.00	
SB4	W300・N10	N-89°-E	桁行3間×梁行1間	5.70×3.75	
SB5	W300～310・N0-S0～S10	N-3°-E	桁行2間×梁行1間	4.05×2.40	

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・断面形	時 期
SK163	W290～300・N10	N-74°-W	長軸145×短軸108×深さ52	楕円形・U字形	
SK164	W290・N10	N-86°-E	長軸402×短軸320×深さ82	楕円形・逆台形	19世紀前半代
SK165	W290・N20	N-10°-E	長軸88×短軸64×深さ8	楕円形・皿状	
SK166	W300・N10	-	北西-南東50×北東-南西[25]×深さ14	（楕円形or円形）・U字形	
SK170	W300・N10	-	径60×深さ12	ほぼ円形・逆台形	